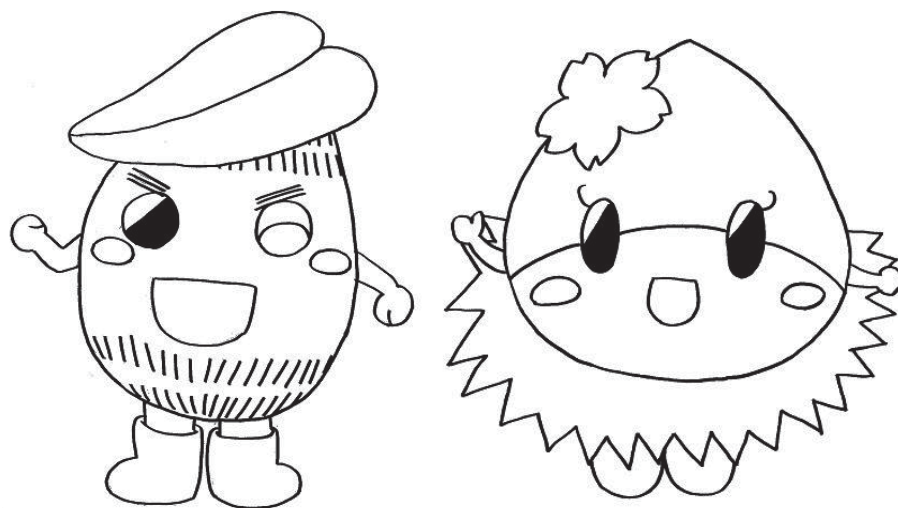


五泉市食育推進計画 評価報告書

●

五泉市第二次食育推進計画

育てよう！
食べる力と五泉の恵み



平成24年3月
五泉市

目 次

第1章	五泉市食育推進計画の概要	
1	基本理念	1 P
2	重点目標	1 P
3	食育推進計画の推進体制	2 P
4	食育推進のための連携体制	3 P
第2章	五泉市の食育をめぐる状況（目標値と達成状況）	4 P
第3章	主たる事業と評価	
1	乳幼児期	14 P
2	学齢思春期	19 P
3	成人期	25 P
4	地産地消の推進	32 P
5	広報宣伝	35 P
第4章	第二次食育推進計画 目標及び目標値	38 P
第5章	目標達成のための基本取組	
1	施策の方向	44 P
2	施策の展開	46 P
	[1] 家庭における食育の推進	46 P
	[2] 学校、保育園等による食育の推進	49 P
	[3] 地域における食育の推進	51 P
	[4] 食と農の交流・地産地消の推進	53 P
	[5] 総合的な食育の推進	54 P
	[6] 行政における食育の推進	55 P
3	重点取組5か年取組計画	57 P
第6章	第二次食育推進計画 推進体制	58 P
参考資料		
	・五泉市食育推進委員会設置要綱及び 平成23年度五泉市食育推進委員会委員名簿	
	・五泉市食育推進検討委員会設置要綱及び 平成23年度五泉市食育推進検討委員会委員名簿	

はじめに



食は、私たちが生きていくために必要なエネルギーであるとともに、食を通して楽しみや喜び、そして時には、感動を与えてくれる大切なものであります。子どものころから、食に関する知識、正しい食習慣を身につけることで、心身共に健康的な成長へとつながり、これが青年期、壮年期、そして高齢期と各世代にわたっての健康の礎になっていくものと感じております。

しかしながら、近年はライフスタイルの変化などにより、食を取り巻く環境は大きく様変わりし、食に対する意識の希薄化が各方面で指摘されるようになりました。

生涯において、心豊かで、心身共に健康で楽しい生活を送るために、一番大切なことは健康であることです。心と体の健康を支える大きな柱の一つは食であり、正しい食生活を学び、次世代に伝え続けていくことが、将来の明るいまちづくりにもつながっていくものと感じております。

本市においては、これまで平成18年度に「五泉市食育推進計画」を策定し、各世代に応じた食育の推進、地域の農産物を使った地産地消による取り組みなどを進めてまいりました。また、学校給食においては、安心・安全で温かい給食を提供し、給食を通じて正しい食教育を行うため、自校式給食施設の整備にも力を注ぐなどし、その成果は確実に広まりを見せているところです。

そしてこの度、これまで進めてきました食育の達成度や評価などを踏まえ、新たな目標を定めた「五泉市第二次食育推進計画」を関係団体、各機関の皆様のご協力のもと策定いたしました。

今後は、この計画に基づき、本市の基幹産業であります農業の特色を生かしながら、市民、地域、関係団体、そして行政などが一体となって、食を通じた健康づくり、そして、五泉の未来を担う人づくりに取り組んでまいりたい次第です。

結びに、計画の策定にあたりご指導いただきました新潟医療福祉大学 村山伸子教授やご尽力いただきました五泉市食育推進委員会並びに五泉市食育推進検討委員会の委員各位、また、アンケート等にご協力いただきました市民の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、本計画の着実な推進に向け、今後とも一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年3月

五泉市長 伊藤 勝美

第1章 五泉市食育推進計画の概要

1 基本理念

家族みんなが、新鮮で安全な地場農産物を使った料理の並ぶ食卓を囲み、
生涯にわたって健康で心豊かな生活が送れる市^{まち}

規則正しく、栄養バランスが整った食事をすることによって、健康な体を保つことができます。また、食を通じて、食卓を囲む人とふれあい、コミュニケーションをとることで心も満たされます。さらに、地元でとれる食材で食卓を彩ることで季節を感じ、より豊かな食事をするすることができます。

そのためには、自分や家族の体や生活習慣はもちろんのこと、食の安全性を始めとする、食を取り巻く環境に関心を持ち、食事を選ぶ力を身に付ける必要があります。

このようなことから、市民全員がいきいきと暮らせるために、地域全体で食育に取り組みます。

2 重点目標

五泉市では3つの重点目標を掲げ、食育を推進します。

① 早寝早起きをして朝ごはんを食べる

最近の子どもたちを見ると、朝食を欠食する、夜遅くまで起きているというように生活習慣が乱れる傾向にあります。このような生活習慣の乱れが、学力、学習意欲、体力、気力の低下に影響していると言われています。

平成18年度五泉市食生活アンケート結果によると、「毎日食べる」という割合は、幼児で88%、小学生92%、中学生で86%、高校生で78%という結果が出ており、平成17年度文部科学省委嘱調査では小学生で85%、中学生で78%という割合です。数値を比較すると国より高い割合ですが、個々の家庭の問題としてこのままにしておくことはできません。このことから、早寝早起きをして朝食をとるなど、子どもにとって望ましい生活習慣を育成し、生活リズムを整えることが重要と考えます。

② 家族みんなが『いただきます』をする

経済成長とともに食べ物があり余る飽食の時代となりました。そのため、食べ物に対する感謝の念が薄れ、『いただきます』や『ごちそうさま』のあいさつが失われつつあります。食べられることは当たり前ではありません。自然の恵み(命)や生産者を始めとする食にかかわる人に、感謝の気持ちを表すあいさ

つは大切なことです。

子どもが一人で食事をする『孤食』が今、問題となっています。なぜなら、孤食は子どもの心身の健康に悪影響をもたらす恐れがあるためです。本来、家庭での食事は家族で食卓を囲み、いろいろな会話がなされる楽しい時間です。さらに、大人と一緒に食事をするすることで、はしの持ち方などの食事のマナーも身に付きます。

五泉市食生活アンケート結果では「食事のあいさつをいつもしている」小学生は、国と同様の半数程度の割合で、「夕食を家族とほぼ毎日食べている」中学生は、66%で国の91%と比較すると非常に低い割合となっています。

③ 地場農産物を使った野菜料理をつくる

私たちを取り囲む食環境に目を向けると、輸入食品の残留農薬や加工食品等における異物混入などの社会的問題により、食の安全性に対して不信感を抱かざるを得ません。また、食品の流通が広範囲にわたり、流通過程も複雑です。

そこで、食の安全・安心への関心の高まりとともに、注目されているのが『地産地消』という取組です。地産地消とは、地域で生産された農産物をその地域で消費することです。消費者は地元の新鮮な農産物を購入することができ、身近な場所で生産されていることから安心感も得られます。この安心感は、消費者と生産者との信頼関係を築くことにより、さらに強まります。

もう1つの問題は慢性的な野菜摂取不足です。平成16年国民健康栄養調査での野菜摂取量は平均で1日266.7gとの結果が出ており、350gの目標値に80g余り不足しています。五泉市においても、平成17年基本健診受診者の食習慣と嗜好の問診結果によると、1日の野菜摂取量が350g以下という者の割合が最も高い40歳代以下の男性で20.6%となっており、やはり問題です。健康の維持・増進に欠かせない野菜をもっととる必要があります。

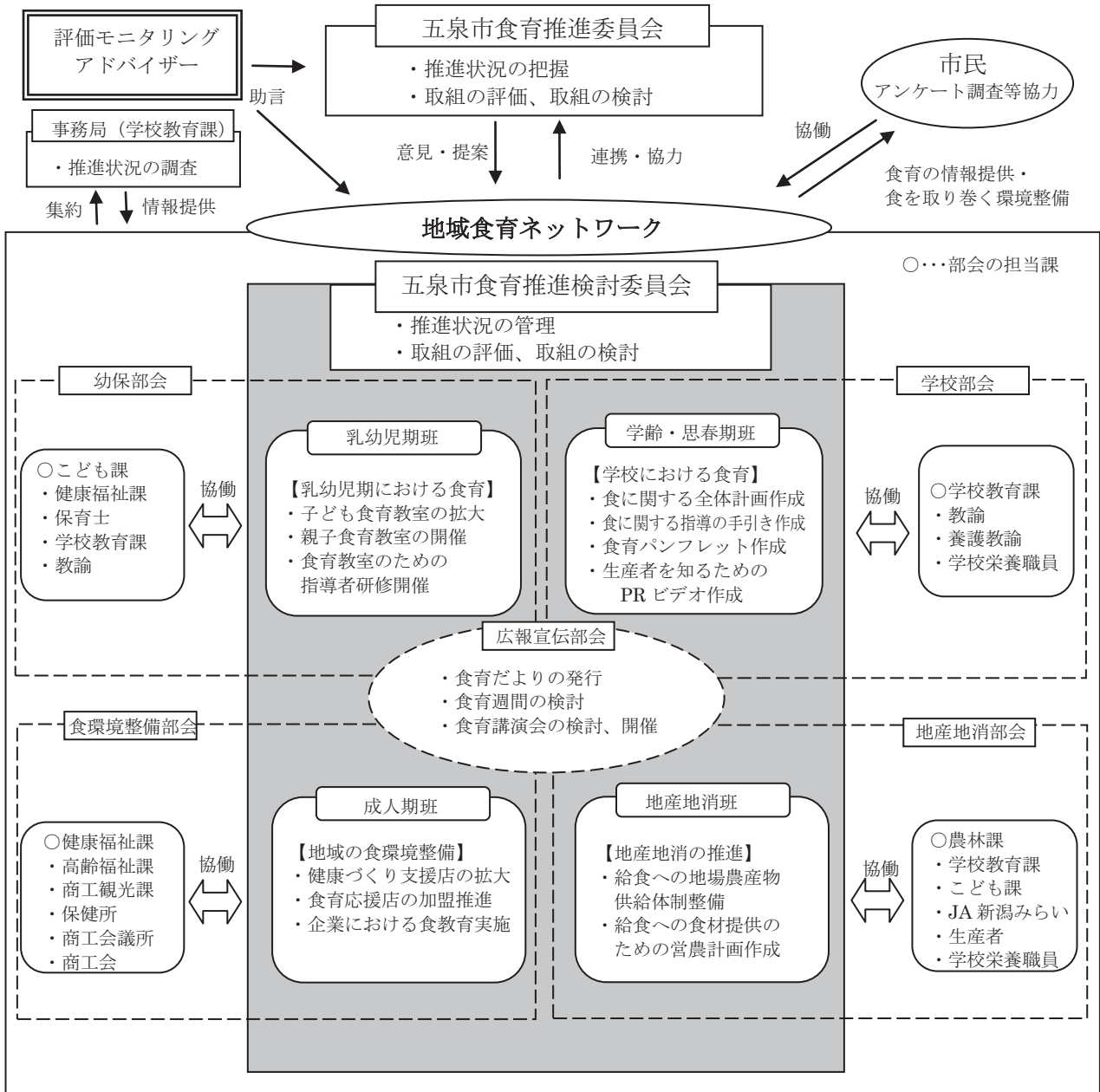
2 食育推進計画の推進体制

(1) 年次計画

推進体制	平成19年度	体制づくり	
	平成20年度	重点目標	早寝早起きをして朝ごはんを食べる
	平成21年度		家族みんなで「いただきます」をする
	平成22年度		地場農産物を使った野菜料理を作る
	平成23年度	総括及び評価	

3 食育推進のための連携体制の確立

食育推進計画の実践は、関係機関が主体となって取組を行います。その中で、他の機関と連携した取組を実施していきます。食育推進検討委員会は、主管課の要請に応じて部会を設置し、計画的、継続的に取組を推進していきます。設置された部会において、担当課が中心となり部会の運営をしていきます。



第2章 五泉市の食育をめぐる状況

1 目標値と達成状況

(1) 乳幼児期

◎→目標値に達成している
 ○→目標値に向けて改善はしているが達成はしていない
 △→策定時に比べて変化なし
 ×→目標値を下回っている

五泉市が目指すもの		基礎データの根拠	計画策定時の状況 (H18.19年)	目標値 (H23年)	調査データ (H23年)	データ根拠 (H23年)	評価区分 (◎○△×)	
大人が子どもの姿に関心をもち、健全で豊かな人間性を育む	家族みんなでマナーを守って 食事をする	食事が楽しいと思う	H18 五泉市食生活アンケート	49%	55%	67%	H23 五泉市食生活アンケート	◎
		夕食を大人ととる	〃	90%	95%	91%	〃	○
		食事のあいさつをする	〃	33%	40%	49%	〃	◎
		就学前に、はしを正しく使う	H19 保育士・幼稚園教諭目視	28%	35%	42%	H23 保育士・幼稚園教諭の目視による調査	◎
		保育者が食事のマナーを意識する	H19五泉市食生活アンケート	23%	50%	11%	H23 五泉市食生活アンケート	◎
		食事中はテレビを消す	五泉市食育推進プロジェクトチーム調べ	27%	35%	ほとんどつけてない 55%	〃	◎
	確立させ、いきいきと過ごす 子どもの生活リズムを	毎日、朝食をとる	H18 五泉市食生活アンケート	88%	100%	74%	〃	×
		子どもが気持ちよく一日のスタートをきる	〃	80%	90%	78%	〃	×
		子どもが7時までに夕食をとる	H19五泉市食生活アンケート	83%	85%	90%	〃	◎
		早寝の習慣がある	H18 五泉市食生活アンケート	いつも 10% だいたい寝ている 25%	いつも だいたい寝ている 50%	いつも 21% だいたい寝ている 36%	〃	◎

大人が子どもの姿に関心をもち、健全で豊かな人間性を育む	正しく食べて親子ともに健康を保つ	離乳食が順調に進んでいる	市健康福祉課調べ (H16 調査)	85%	90%	75%	10 か月健診 H23. 4~6 月調査 こども課調べ	×																		
		主食、主菜、副菜の3つの献立が揃う	H18 五泉市食生活アンケート	67%	75%	68%	H23 五泉市食生活アンケート	○																		
		いろいろな食材を食べる	〃	残食をほとんどしない 17%	25%	残食をほとんどしない 14%	〃	×																		
		よくかんで食べる	五泉市食育推進プロジェクトチーム調べ	86%	90%	74%	〃	×																		
		保育者がおやつとの与え方を意識する (時間、内容、量)	親子いきいき計画 村松乳幼児生活アンケート	<table border="1"> <tr> <td>時間を決めている</td> <td>五泉 28% 村松 28%</td> </tr> <tr> <td>栄養に注意している</td> <td>五泉 6.8% 村松 3.2%</td> </tr> <tr> <td>甘いものを少なく</td> <td>五泉 5.7% 村松 9.2%</td> </tr> </table>	時間を決めている	五泉 28% 村松 28%	栄養に注意している	五泉 6.8% 村松 3.2%	甘いものを少なく	五泉 5.7% 村松 9.2%	<table border="1"> <tr> <td>時間を決めている</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>栄養に注意している</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>甘いものを少なく</td> <td>10%</td> </tr> </table>	時間を決めている	30%	栄養に注意している	8%	甘いものを少なく	10%	<table border="1"> <tr> <td>時間を決めている</td> <td>49%</td> </tr> <tr> <td>栄養に注意している</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>甘いものを少なく</td> <td>22%</td> </tr> </table>	時間を決めている	49%	栄養に注意している	10%	甘いものを少なく	22%	〃	◎
		時間を決めている	五泉 28% 村松 28%																							
		栄養に注意している	五泉 6.8% 村松 3.2%																							
		甘いものを少なく	五泉 5.7% 村松 9.2%																							
時間を決めている	30%																									
栄養に注意している	8%																									
甘いものを少なく	10%																									
時間を決めている	49%																									
栄養に注意している	10%																									
甘いものを少なく	22%																									
子どもの肥満とやせすぎを予防する	県市町村 栄養士 協議会資料 H13~15 平均	肥満 3歳男 3.4% 女 5.1% 5歳男 8.9% 女 9.7% やせすぎ 3歳男 1.3% 女 1.4% 5歳男 1.6% 女 2.9%	肥満 3歳 3%以下 5歳 8%以下 やせすぎ 3歳 1%以下 5歳 1.5%以下	肥満 3歳男 1.2% 女 5.4% 5歳男 3.3% 女 3.5% やせ 3歳男 0.6% 女 0.6% 5歳男 2.7% 女 0.7%	H23 県市町村 栄養士 協議会報告資料	◎																				
妊婦の貧血を予防する	市健康福祉課調べ (H18 調査)	12%	10%	7%	H22 こども課調べ	◎																				
子どものむし歯を予防する	H16 五泉市 健康福祉概況	罹患率 1.6歳 5.3% 3歳 36.8% う歯本数 1.6歳 0.16本 3歳 1.77本	罹患率 1.6歳 4.0%以下 3歳 30%以下 う歯本数 1.6歳 0.1本以下 3歳 1.4本以下	罹患率 1.6歳 1.1% 3歳 24.9% う歯本数 1.6歳 0.04本 3歳 0.94本	H22 1歳6か月 及び3歳児歯科健診結果 こども課調べ	◎																				

【考 察】

- ・食事のマナーの習得については、ほとんどの目標値を達成することができた。
- ・朝の生活リズム（朝食・起床）についての目標値は達成できなかった反面、夜の生活リズム（夕食・早寝）の目標値は達成できた。
- ・離乳食、いろいろな食材を残さず食べる、よくかんで食べるなどの、食べ方についての目標値は達成することができなかった。
- ・肥満とやせの予防、妊婦の貧血予防、子どもの虫歯予防についての目標は全て達成できた。

◎→目標値に達成している
 ○→目標値に向けて改善はしているが達成はしていない
 △→策定時に比べて変化なし
 ×→目標値を下回っている

(2) 学齢思春期

五泉市が目指すもの		基礎データの根拠	計画策定時の状況 (H18.19年)	目標値 (H23年)	調査データ (H23年)	データ根拠 (H23年)	評価区分 (◎○△×)
家族一緒にの食卓で心と体を育む	子どもが家族と一緒に食事をする	食事が楽しいと思う	H18 五泉市食生活アンケート 小3 71% 小5 65% 中2 40% 高2 33%	小学生 75% 中高生 42%	小3 72% 小5 79% 中2 46% 高2 48%	H23 五泉市食生活アンケート	小：◎ 中：◎ 高：◎
		夕食を大人ととる	” 小3 93% 小5 90% 中2 66% 高2 54%	小学生 95% 中学生 70% 高校生 60%	小3 90% 小5 89% 中2 70% 高2 53%	”	小：× 中：◎ 高：×
		食べ物の大切さや感謝の気持ちを持ち、食事のあいさつをする	” 食事のあいさつをいつもしている 小3 54% 小5 48% 中2 33% 高2 28% 食事を残さず食べる 小3 81% 小5 78% 中2 77% 高2 85%	食事のあいさつをいつもしている 小学生 70% 中学生 60% 高校生 50% 食事を残さず食べる 90%	食事のあいさつをいつもしている 小3 55% 小5 58% 中2 43% 高2 37% 食事を残さず食べる 小3 86% 小5 91% 中2 87% 高2 91%	”	小：△ 中：○ 高：○ 小：○ 中：○ 高：◎
		子どもが食に関するお手伝いをする	” 小3 49% 小5 52% 中2 50% 高2 54%	70%	小3 50% 小5 53% 中2 55% 高2 60%	”	小：○ 中：× 高：○

家族一緒の食卓で心と体を育む	生活リズムを整え、 快適な生活を送る	毎日、朝食をとる	〃	小3 88% 小5 92% 中2 86% 高2 78%	100%	小3 94% 小5 98% 中2 88% 高2 82%	H23 五泉市食生活 アンケート	小：○ 中：○ 高：○
		毎日、排便習慣がある	〃	小3 56% 小5 56% 中2 17% 高2 45%	小学生 60% 中学生 20% 高校生 55%	小3 63% 小5 58% 中2 44% 高2 51%	〃	小：◎ 中：◎ 高：○
		早寝の習慣がある	〃	10時前に寝る 小3 42% 小5 21% 睡眠時間が7時間以上 中2 83% 高2 55%	10時前に寝る 小学生 50% 7時間以上寝る 中学生 90% 高校生 60%	10時前に寝る 小3 40% 小5 27% 睡眠時間が7時間以上 中2 85% 高2 58%	〃	小：○ 中：○ 高：○
	子どもにあった食生活を送り、 健やかに成長する	子どもが自分の食べる物の 適切な摂取量と質を知って いる (野菜、おやつ)	〃	夕食で主食・ 主菜・副菜が 揃っている 小3 80% 小5 76% 中2 61% 高2 58%	夕食で主食・ 主菜・副菜が 揃っている 小学生 90% 中高生 70%	夕食で主食・ 主菜・副菜が 揃っている 小3 69% 小5 74% 中2 54% 高2 53%	〃	小：×
				自分にあつた野菜摂取量を 知っている 小3 24% 小5 23% 中2 16% 高2 27%	自分にあつた野菜摂取量を 知っている 50%	自分にあつた野菜摂取量 を知っている 小3 74% 小5 73% 中2 44% 高2 50%		中：×
				望ましいおやつ の摂取をしている (穀類・乳製品・果物) 小3 19% 小5 17% 中2 18% 高2 11%	望ましいおやつ の摂取をしている 25%	望ましいおやつ の摂取をしている (穀類・乳製品・果物) 小3 16% 小5 19% 中2 10% 高2 13%		高：×
							小：◎ 中：×	
							高：◎	
							小：△ 中：×	
							高：○	

家族一緒にの食卓で心と体を育む	子どもにあった食生活を送り、 健やかに成長する	適正体重を知り、肥満とやせすぎを予防する	H18 五泉市食生活アンケート 学校保健統計	自分の適正体重を知っている 小3 62% 小5 75% 中2 39% 高2 48% 肥満傾向の子どもの割合 小学生 11.6% 中学生 10.6% やせすぎの子どもの割合 小学生 1.4% 中学生 2.6% 高校生 5.0%	適正体重を知っている 90% 肥満傾向の子どもの割合 7% やせすぎの子どもの割合 小学生 0.7% 中学生 1.3% 高校生 2.5%	自分の適正体重を知っている 小3 52% 小5 50% 中2 39% 高2 50% 肥満傾向の子どもの割合 小学生 8.6% 中学生 9.8% やせすぎの子どもの割合 小学生 1.0% 中学生 3.7%	H23 五泉市食生活アンケート 学校保健統計 学校保健統計	小：× 中：○ 高：○ 小：○ 中：○ 小：○ 中：×
		子どもが食や健康について関心をもつ	H18 五泉市食生活アンケート	栄養や健康について考える 小3 36% 小5 38% 中2 49% 高2 59%	栄養や健康について考える 小学生 40% 中学生 60% 高校生 70%	栄養や健康について考える 小3 46% 小5 58% 中2 50% 高2 55%	〃	小：◎ 中：○ 高：×

【考 察】

- ・食事の楽しさや食事のあいさつ・残さず食べる・お手伝いなどについては、改善傾向にはあるが、大人と一緒にの夕食、中学生のお手伝いについての目標値を下回った。
- ・生活リズムの確立は、すべての項目について改善傾向にある。
- ・バランスのとれた夕食の摂取、中学生の野菜やおやつに関する知識の習得について目標値を下回った。
- ・中学生のやせすぎの予防以外、肥満とやせすぎの予防については改善傾向にある。
- ・食や健康についての関心については、学年が上がるにつれて目標値の達成はできなかった。

◎→目標値に達成している
 ○→目標値に向けて改善はしているが達成はしていない
 △→策定時に比べて変化なし
 ×→目標値を下回っている

(3) 成人期

五泉市が目指すもの		基礎データの根拠	計画策定時の状況 (H18.19年)	目標値 (H23年)	調査データ (H23年)	データ根拠 (H23年)	評価区分 (◎○△×)																		
健康でいきいきとした人生を送る	主食、主菜、副菜の揃った食事をする	エネルギーのとり過ぎを防ぐ	H17年基本健康診査 BMI25以上の有所見率 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>22.9%</td></tr> <tr><td>男</td><td>25.6%</td></tr> <tr><td>女</td><td>24.1%</td></tr> </table> 男性…20～60歳代 女性…40～60歳代	市	22.9%	男	25.6%	女	24.1%	男性 15%以下 女性 20%以下	BMI25以上有所見率 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>23.0%</td></tr> <tr><td>男</td><td>24.3%</td></tr> <tr><td>女</td><td>22.0%</td></tr> </table> 40～74歳 H17年基本健康診査と同条件 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>24.2%</td></tr> <tr><td>男</td><td>27.0%</td></tr> <tr><td>女</td><td>22.2%</td></tr> </table> 男性…20～60歳代 女性…40～60歳代	市	23.0%	男	24.3%	女	22.0%	市	24.2%	男	27.0%	女	22.2%	H21 特定健診実施結果	×
		市	22.9%																						
		男	25.6%																						
		女	24.1%																						
市	23.0%																								
男	24.3%																								
女	22.0%																								
市	24.2%																								
男	27.0%																								
女	22.2%																								
毎日、牛乳や乳製品をとる	〃	牛乳・乳製品を1週間に7回摂取している人 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>28.2%</td></tr> <tr><td>男</td><td>29.3%</td></tr> <tr><td>女</td><td>27.6%</td></tr> </table>	市	28.2%	男	29.3%	女	27.6%	[市] 30%以上	牛乳を1週間に7本摂取している人※ ₁ <table border="1"> <tr><td>市</td><td>10.1%</td></tr> <tr><td>男</td><td>11.7%</td></tr> <tr><td>女</td><td>8.6%</td></tr> </table>	市	10.1%	男	11.7%	女	8.6%	平成21年度市民の健康に関する意識・生活習慣アンケート (対象 ※ ₂ 参照) <table border="1"> <tr><td>市</td><td>12.6%</td></tr> <tr><td>男</td><td>15.1%</td></tr> <tr><td>女</td><td>9.7%</td></tr> </table> 50～70代	市	12.6%	男	15.1%	女	9.7%	×	
市	28.2%																								
男	29.3%																								
女	27.6%																								
市	10.1%																								
男	11.7%																								
女	8.6%																								
市	12.6%																								
男	15.1%																								
女	9.7%																								
毎食、副菜をとる	〃	野菜の摂取量が350g以下の人 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>8.3%</td></tr> <tr><td>男</td><td>12.0%</td></tr> <tr><td>女</td><td>6.5%</td></tr> </table>	市	8.3%	男	12.0%	女	6.5%	[市] 7%以下	野菜の摂取量が350g以下の人 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>39.5%</td></tr> <tr><td>男</td><td>38.6%</td></tr> <tr><td>女</td><td>41.5%</td></tr> </table>	市	39.5%	男	38.6%	女	41.5%	〃 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>31.5%</td></tr> <tr><td>男</td><td>29.9%</td></tr> <tr><td>女</td><td>33.3%</td></tr> </table> 50～70代	市	31.5%	男	29.9%	女	33.3%	×	
市	8.3%																								
男	12.0%																								
女	6.5%																								
市	39.5%																								
男	38.6%																								
女	41.5%																								
市	31.5%																								
男	29.9%																								
女	33.3%																								
塩分摂取量を減らす	〃	みそ汁を1日3杯以上飲む人 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>29.2%</td></tr> <tr><td>男</td><td>41.6%</td></tr> <tr><td>女</td><td>24.2%</td></tr> </table>	市	29.2%	男	41.6%	女	24.2%	[市] 20%以下	みそ汁を1日3杯以上飲む人 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>11.0%</td></tr> <tr><td>男</td><td>14.9%</td></tr> <tr><td>女</td><td>7.1%</td></tr> </table>	市	11.0%	男	14.9%	女	7.1%	〃 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>14.3%</td></tr> <tr><td>男</td><td>18.1%</td></tr> <tr><td>女</td><td>10.1%</td></tr> </table> 50～70代	市	14.3%	男	18.1%	女	10.1%	◎	
市	29.2%																								
男	41.6%																								
女	24.2%																								
市	11.0%																								
男	14.9%																								
女	7.1%																								
市	14.3%																								
男	18.1%																								
女	10.1%																								

健康でいきいきとした人生を送る	健康に関心をもち、メタボリックシンドロームを予防する	糖尿病の者の割合を減らす	〃	糖代謝異常の者の割合 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>15.3%</td></tr> <tr><td>男</td><td>22.6%</td></tr> <tr><td>女</td><td>11.7%</td></tr> </table>	市	15.3%	男	22.6%	女	11.7%	[市] 14.2%	糖代謝異常の者の割合※ <table border="1"> <tr><td>市</td><td>57.0%</td></tr> <tr><td>男</td><td>53.9%</td></tr> <tr><td>女</td><td>59.3%</td></tr> </table> 40～74歳 H17年基本健康診査と同条件 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>40.0%</td></tr> <tr><td>男</td><td>39.6%</td></tr> <tr><td>女</td><td>40.3%</td></tr> </table> 30歳以上	市	57.0%	男	53.9%	女	59.3%	市	40.0%	男	39.6%	女	40.3%	H21 特定健診実施結果	×
		市	15.3%																							
		男	22.6%																							
女	11.7%																									
市	57.0%																									
男	53.9%																									
女	59.3%																									
市	40.0%																									
男	39.6%																									
女	40.3%																									
循環器疾患（高血圧、心臓病、脳卒中など）の者の割合を減らす	〃	境界型高血圧の者の割合 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>26.7%</td></tr> <tr><td>男</td><td>34.7%</td></tr> <tr><td>女</td><td>21.9%</td></tr> </table>	市	26.7%	男	34.7%	女	21.9%	[市] 15%以下	境界型高血圧の者の割合※ ₄ <table border="1"> <tr><td>市</td><td>39.4%</td></tr> <tr><td>男</td><td>46.8%</td></tr> <tr><td>女</td><td>34.0%</td></tr> </table> 40～74歳 〃 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>32.0%</td></tr> <tr><td>男</td><td>43.3%</td></tr> <tr><td>女</td><td>23.8%</td></tr> </table> 30歳以上	市	39.4%	男	46.8%	女	34.0%	市	32.0%	男	43.3%	女	23.8%	〃	×		
市	26.7%																									
男	34.7%																									
女	21.9%																									
市	39.4%																									
男	46.8%																									
女	34.0%																									
市	32.0%																									
男	43.3%																									
女	23.8%																									
高脂血症の者の割合を減らす	H17年基本健康診査	血清総コレステロール値240mg/dl以上の高脂血症の者の割合 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>15.1%</td></tr> <tr><td>男</td><td>8.5%</td></tr> <tr><td>女</td><td>18.8%</td></tr> </table>	市	15.1%	男	8.5%	女	18.8%	男性 5.2%以下 女性 12.0%以下	血清総コレステロール値220mg/dl※ ₅ 以上の高脂血症の者の割合 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>30.7%</td></tr> <tr><td>男</td><td>22.3%</td></tr> <tr><td>女</td><td>36.7%</td></tr> </table> 40～74歳 血清総コレステロール値240mg/dl以上の高脂血症の者の割合 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>18.9%</td></tr> <tr><td>男</td><td>11.6%</td></tr> <tr><td>女</td><td>22.6%</td></tr> </table> 30歳以上	市	30.7%	男	22.3%	女	36.7%	市	18.9%	男	11.6%	女	22.6%	〃	×		
市	15.1%																									
男	8.5%																									
女	18.8%																									
市	30.7%																									
男	22.3%																									
女	36.7%																									
市	18.9%																									
男	11.6%																									
女	22.6%																									

健康でいきいきとした人生を送る	地域の伝統的な食文化を次世代に伝える	家族みんなで協力して家事に関わることにより、食への関心を高める	H18 五泉市食生活アンケート	子どもが食に関するお手伝いをする 小3 49% 小5 52% 中2 50% 高2 54%	70%	小3 50% 小5 53% 中2 55% 高2 60%	H23 五泉市食生活アンケート	○
		地域において、食を通じた交流と食文化の伝承を図る	学校教育課調べ	地域と学校の食を通じた交流会の開催 6校	増加	H18～22 述べ参加校数 34校 述べ参加人数 2,242人	学校教育課、健康福祉課調べ	◎

※1…H17年基本健康診査においては牛乳・乳製品の項目でかつ回数を伺う問いだったが、H21年調査では牛乳に限っており、また本数で伺っているため、H17年調査条件と若干異なる。

※2…H21年度 市民の健康に関する意識・生活習慣アンケートの対象は、市内20～70歳代の人のうちランダムに抽出した男女2,000人(回収数947)のため、H17年当時の対象と異なっている。H17年基本健康診査の対象年齢は50歳以上が約9割を占めることから50～70歳代数値を記載した。

※3…H17年基本健康診査では、糖代謝異常はHbA_{1c}が5.5%以上であったが、H21年特定健診では糖代謝異常はHbA_{1c}が5.2%以上である。

※4…H17年基本健康診査では、境界型高血圧は収縮期血圧が140mmHg以上または拡張期血圧が90mmHg以上のことであったが、H21年特定健診では、収縮期血圧130mmHg以上または拡張期血圧85mmHg以上である。

※5…H21年特定健診では、脂質代謝異常を総コレステロール値220mg/dl以上としているため、220mg/dl以上の者の割合を記載する。

【考 察】

- ・平成19年度より、基本健康診査から特定健診へと制度が移行したため、対象年齢や検査項目基準値が異なっている。そのため、全く同じ条件での比較はほぼできないため、近い条件での値の比較しかできない。
- ・地域と学校の食を通じた交流会の開催を希望する小中学校が多く、目標値を達成することができた。

◎→目標値に達成している
 ○→目標値に向けて改善はしているが達成はしていない
 △→策定時に比べて変化なし
 ×→目標値を下回っている

(4) 地産地消の推進

五泉市が目指すもの		基礎データの根拠	計画策定時の状況 (H18.19年)	目標値 (H23年)	調査データ (H23年)	データ根拠 (H23年)	評価区分 (◎○△×)																
市民に地場産の安全で安心な農産物を供給する	学校、保育園等で地場農産物の利用率を上げる	J Aを中心とした供給体制を確立し、地場農産物を積極的に使用する	学校教育課調べ ・学校給食における地場産野菜利用率 (H17) *重量ベース <table border="1"> <tr><td>五泉</td><td>村松</td></tr> <tr><td>20%</td><td>5%</td></tr> </table> ・幼稚園・保育園における給食での地場産野菜利用率 (H17) *重量ベース <table border="1"> <tr><td>幼稚園</td><td>17.8%</td></tr> <tr><td>保育園</td><td>4.1%</td></tr> </table>	五泉	村松	20%	5%	幼稚園	17.8%	保育園	4.1%	25%	・学校給食における地場産野菜利用率 (H22末) *重量ベース <table border="1"> <tr><td>五泉</td><td>村松</td></tr> <tr><td>22.2%</td><td>13.4%</td></tr> </table> ・幼稚園・保育園における給食での地場産野菜利用率 (H22末) *重量ベース <table border="1"> <tr><td>幼稚園</td><td>10.4%</td></tr> <tr><td>保育園</td><td>5.1%</td></tr> </table>	五泉	村松	22.2%	13.4%	幼稚園	10.4%	保育園	5.1%	学校教育課調べ	○
		五泉	村松																				
		20%	5%																				
	幼稚園	17.8%																					
	保育園	4.1%																					
五泉	村松																						
22.2%	13.4%																						
幼稚園	10.4%																						
保育園	5.1%																						
給食への食材提供のための営農計画を立てる	-	計画がない	計画を立てる	計画を立てる	地産地消連絡会検討報告書より	○																	
生産者と関係機関が連携して技術の向上を図る	-	研修機会少ない	増加	-		○																	
家庭での地場農産物の利用率を上げる	市民が「地産地消」という言葉を知っている	H20 市民アンケート	59.7%	85%	77.3%	H22 市民アンケート	○																
	若年層消費者が地場農産物に関心をもち、積極的に利用する	H20 市民アンケート	7%	15%	5%	H22 市民アンケート	△																

安心な農産物を供給する 市民に地場産の安全で 意識を高める	生産者の地産地消に関する 意識を高める	生産者の安全、安心に対する意識を高める	農林課調べ	○特別栽培農産物等面積 22ha ○エコファーマー認定者数 29人	100ha 90人	71.9ha 247人	H23 農林課データ	○ ◎
		消費者との信頼関係の構築や交流の推進を図る	新潟県食育ボランティア名簿より	○食育ボランティア登録者数 3人	16人	4人	新潟県食育ボランティア名簿より	○
		地場農産物の販売量を増やす	農林課調べ	○直売所等における地場農産物の販売額 146,000千円	260,000千円	273,401千円	H22 農林課データ	◎
		消費者ニーズを捉え対応する ⇒旬の野菜を新鮮なうちに食べられること	H20 市民アンケート	25.7%	30%	—		

【考 察】

- ・地場農産物の利用率について、村松地区の学校では利用率が伸び、幼稚園・保育園給食において利用率は伸びていない。
- ・「地産地消」という言葉の認知は上がってはいるが、目標値は達成できなかった。
- ・生産者の意識の向上としての目標については、ほとんどの目標において改善傾向にある。

第3章 主たる事業と評価

1 乳幼児期

事業名	食育指導者研修会（幼1）				
具体的目標		策定時の 達成状況	評価時の 達成状況	目標値	達成度
	毎日朝食をとる	88%	74%	100%	×
	食事が楽しいと思う	49%	67%	55%	◎
	夕食を大人ととる	90%	91%	95%	○
	食事のあいさつをする	33%	49%	40%	◎
	主食主菜副菜の3つの献立が揃う	67%	68%	75%	○
	子どもが気持ちよく一日のスタートをきる	80%	78%	90%	×
	早寝の習慣がある	いつも 10% だいたい 25%	いつも 21% だいたい 36%	いつも・だいたい 寝ている 50%	◎
取組年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
	○	○	○	○	○
担当課	こども課	関連課	学校教育課 保育園 幼稚園		
目的	子どもたちへ実際に食育の指導をする保育士・幼稚園教諭・調理員が研修を受けることにより、食育の大切さを認識し、より効果的な指導を行える。				
取組の推移	<p>【H19】「朝食の大切さ～幼児期からの食育～」 新潟医療福祉大学 小林奈穂様 【参加者 73名】</p> <p>【H20】「保育園で進める食育～新潟市の取組～」 新潟市保健福祉部保健課 関崎久美子様 【参加者 57名】</p> <p>【H21】「食と心のかかわり～家族一緒にいただきますをすることで育つ子どもの心と身体」 心理カウンセラー 山野辺輝子様 【参加者 55名】</p> <p>【H22】「地場産農産物はなぜいいの」 新潟大学名誉教授 伊藤忠雄 様 【参加者 48名】</p> <p>【H23】「早寝・早起き・朝ごはん～生活リズムと食事の大切さ～」 新潟大学医学部保健学科 住吉智子様 【参加者 58名】</p>				
事業効果 及び評価	初年度、「食育とは」という基本的なことから学び、その年の重点目標に関する内容をテーマに、毎年研修会を開催。得た認識を日々の活動やおたより、食育教室等で子ども達や保護者に伝えており、効果はあった。しかし、「毎日朝食をとる」子どもの割合が14%低下していた。その年の重点目標をテーマとして食育活動を展開させてきたが、「生活リズムと朝食」については生活の基本であることから毎年キャンペーンを行う等、常に呼びかける必要がある。				

事業名	食育教室（幼2）							
具体的目標		策定時の 達成状況	評価時の 達成状況	目標値	達成度			
	就学前に、はしを正しく使う	28%	42%	35%	◎			
	保育者が食事のマナーを意識する	23%	11%	50%	◎			
	毎日、朝食を食べる	88%	74%	100%	×			
	子どもが気持ちよく一日のスタートをきる	80%	78%	90%	◎			
	子どもが7時までに夕食をとる	83%	90%	85%	◎			
	早寝の習慣がある	いつも 10% だいたい 25%	いつも 21% だいたい 36%	いつも・だいたい 寝ている 50%	◎			
	いろいろな食材を食べる	残食をほとんどしない 17%	残食をほとんどしない 14%	残食をほとんどしない 25%	×			
	よくかんで食べる	86%	74%	90%	×			
	保育者がおやつとの与え方を意識する	時間を決めている 五泉 28% 村松 28% 栄養に注意している 五泉 6.8% 村松 3.2% 甘いものを少なく 五泉 5.7% 村松 9.2%	時間を決めている 49% 栄養に注意している 10% 甘いものを少なく 22%	時間を決めている 30% 栄養に注意している 8% 甘いものを少なく 10%	◎			
取組年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度			
	○	○	○	○	○			
担当課	こども課	関連課	学校教育課・保育園・幼稚園					
目的	子ども達や保護者が、食事に関心を持ち、マナー、欠食予防、食習慣などにおいて正しい食生活が実践できる。							
取組の推移	<ul style="list-style-type: none"> 年間実施回数 【H19】 34回／16園 【H20】 29回／16園 【H21】 21回／16園 【H22】 34回／16園 【H23】 47回／16園 テーマ別実施回数分類 							
		H19	H20	H21	H22	H23	合計	
	①生活リズム	10	8	8	9	12	47	18.8%
	②食品群	7	5	8	6	8	34	13.6%
	③食事のバランス	6	7	6	2	2	23	9.2%
	④食事のマナー	6	2	5	4	8	25	10.0%
	⑤朝食	6	4	4	4	6	24	9.6%
	⑥おやつ	7	1	2	2	2	14	5.6%
	⑦地産地消	0	0	2	5	2	9	3.6%
	⑧調理実習	1	11	14	15	16	57	22.8%

	⑨その他	3	4	3	3	3	16	6.4%
	計	46	42	52	50	59	249	
※1回の食育教室に複数のテーマを設定している園あり								
事業効果及び評価	<p>回数の増減はあったものの、エプロンシアターや紙芝居等の媒体で視覚的に子どもたちや保護者に訴えるもの、ゲームやクッキング等の内容が充実してきている。今後、各園の媒体リストを作成して、他園に貸し出しができるよう調整していきたい。</p> <p>食育教室の内容をテーマ別に分類してみると、調理実習、生活リズムについてのテーマが多く、朝食やおやつなど食べ方のスキル向上のためのテーマが乏しい。保護者への数少ない直接的な伝達の機会であることから、家庭においてすぐに実践できる具体的な講話や実習などの内容を盛り込んでいくことも今後で必要である。また、複数のテーマを設けた盛りだくさんな食育教室の内容構成は避けることで、保護者の理解度も深まる。</p> <p>園児の実態を把握しながら、おたより等で情報伝達するもの、教室や懇談会、保育参観などで直接的に伝達するものを分類し、園生活全体を通じて食育についての知識が深まるよう配慮しながら全体の食に関する指導を検討していく必要がある。</p>							

事業名	保護者参加型食育教室（幼3）				
具体的目標	策定時の達成状況	評価時の達成状況	目標値	達成度	
就学前に、はしを正しく使う	28%	42%	35%	◎	
保育者が食事のマナーを意識する	23%	11%	50%	◎	
毎日、朝食を食べる	88%	74%	100%	×	
子どもが気持ちよく一日のスタートをきる	80%	78%	90%	◎	
子どもが7時までに夕食をとる	83%	90%	85%	◎	
早寝の習慣がある	いつも 10% だいたい 25%	いつも 21% だいたい 36%	いつも・だいたい 50%	◎	
いろいろな食材を食べる	残食をほとんどしない 17%	残食をほとんどしない 14%	残食をほとんどしない 25%	×	
よくかんで食べる	86%	74%	90%	×	
保育者がおやつとの与え方を意識する	時間を決めている 五泉 28% 村松 28% 栄養に注意している 五泉 6.8% 村松 3.2% 甘いものを少なく 五泉 5.7% 村松 9.2%	時間を決めている 49% 栄養に注意している 10% 甘いものを少なく 22%	時間を決めている 30% 栄養に注意している 8% 甘いものを少なく 10%	◎	
取組年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	○	○	○	○	○
担当課	こども課	関連課	学校教育課・保育園・幼稚園		

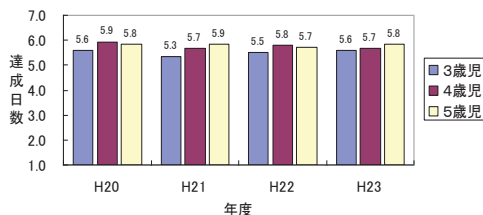
目的	園児の食に関する現状や問題点を認識し、「改善のための主体的な取組」や「生活習慣病予防に関する食生活や生活習慣」等を踏まえた食育教室を実施することで、参加者の保護者がエンパワーメントし、地域や他の保育園保護者への波及効果を及ぼすことができる。
取組の推移	<p>【H19】・村松第1保育園「おやつについて・ラップおにぎり作り」</p> <p>【H20】・あさひ保育園「親子調理体験・早寝早起き朝ごはんで生活リズムを整える」 ・大蒲原保育園「よく噛んで食べよう～咀嚼について～」</p> <p>【H21】・あさひ保育園「親子調理体験と食べ物の大切さ・生活リズムについて」 ・第一幼稚園「赤・黄・緑の食品群についてクイズとパネルシアター」</p> <p>【H22】・ひばり保育園「マナーと箸の持ち方について」 ・第一幼稚園「赤・黄・緑の食品群についてクイズとパネルシアター」 ・村松幼稚園 寸劇「うんちくん」(排便について)</p> <p>【H23】・はしだ保育園「食事のマナーと生活リズムについて」 ・第一幼稚園「赤・黄・緑の食品群についてクイズとパネルシアター」 ・村松幼稚園「給食もりもり。めざせ！げんきっず！」(3色食品群について)</p>
事業効果及び評価	<p>保護者や地域の方々と一緒に取り組むことで、家庭での状況や悩みなど具体的に把握でき、いろいろな視点で活動ができた。</p> <p>第一幼稚園でH21年度の取り組みをきっかけに、次年度から保護者会で食育担当者を選任して、第一幼稚園及び村松幼稚園で継続的に取り組んでいる。</p>

事業名	食育週間（幼4）				
具体的目標		策定時の 達成状況	評価時の 達成状況	目標値	達成度
	夕食を大人ととる	90%	91%	95%	○
	食事のあいさつをする	33%	49%	40%	◎
	食事の時はテレビを消す	27%	ほとんどつけてない 55%	35%	◎
	よくかんで食べる	86%	74%	90%	×
	早寝の習慣がある	いつも 10% だいたい 25%	いつも・だいたい 寝ている 50%	いつも 21% だいたい 36%	◎
取組年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	○	○	○	○	○
担当課	こども課	関連課	学校教育課・保育園・幼稚園		
目的	重点目標にあわせた生活チェック等を行うことにより、正しい生活習慣を身につけるとともに規則正しい食生活を身につける。				
重点目標の 取組の推移	<p>【H19】 早寝早起きをして朝ごはんを食べる</p> <p>【H20】 早寝早起きをして朝ごはんを食べる</p>				

【H21】家族と一緒にご飯を食べる
 【H22】赤・黄・緑の仲間の食べ物が揃った食事をする
 【H23】早寝早起きをして朝ごはんを食べる

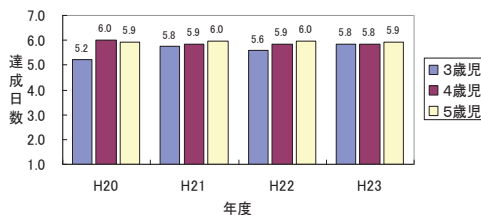
生活チェック
 項目別集計結果

① 朝6～7時のあいだに起きた



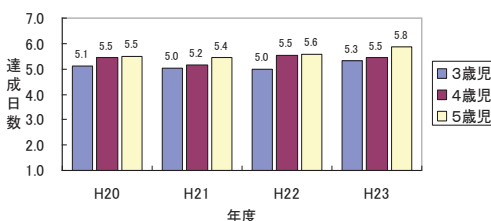
3歳から4歳へ成長したときの、達成日数の増加がどの年度にもみられる。
 一方、4歳から5歳へ成長したとき、どの年度でも達成日数は横ばいで、変化が小さい。

② 1日1回はウンチをした



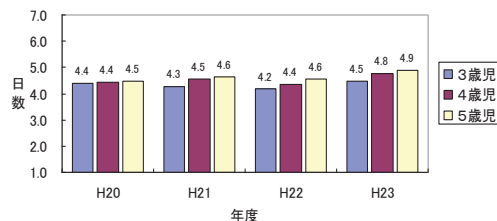
数値の推移は横ばい。

③ ごはんの前には、おやつを我慢できる



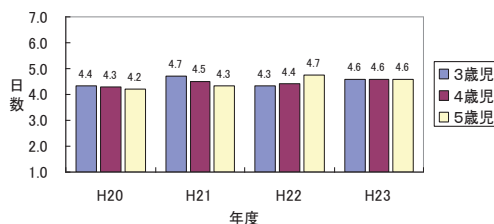
3歳の児童が5歳になったとき、達成日数が伸びている。
 平成20年の3歳児より、平成21年度の3歳児で達成日数の増加が大きい。

⑤ ごはんのときは、テレビは消す



3歳の児童が5歳になったとき、達成日数が伸びている。
 平成20年の3歳児より、平成21年度の3歳児で達成日数の増加が大きい。
 ①早起き、②排便、③おやつ我慢と比べると、達成日数が5日を超える群が無く、低い数値である。

⑥ 夜9時までに布団に入る



数値の推移は横ばい。
 ①早起き、②排便、③おやつ我慢と比べると、達成日数が5日を超える群が無く、低い数値である。

* H19年度は、データなし
 * H21年度は、川内保育園のデータなし

事業効果及び評価

- ・ ①早起き、②排便、⑥早寝は個人の生活リズムなので、改善しようという意識が高くても、実際に行動に移すことが困難であると結果から推測できる。
- ・ ③おやつ我慢と⑤テレビを消すは、我慢しようという意識が行動に結びつきやすいためか、数字の増加が見られる。
- ・ ⑤テレビを消すと⑥早寝は、①早起き、②排便、③おやつ我慢と比べて低い数値だということが読み取れる。⑤テレビを消すと⑥9時に寝るの2つの項目の改善が課題。

	<ul style="list-style-type: none"> ・他の項目についても、現状の数値を落とさないような取組が必要。 ・6月実施の食育週間は全園実施しているが、その後も独自で取り組む園が増えていく。食育週間の期間だけは生活リズムを整える傾向にある。生活リズムを意識するきっかけとはなっているので、より達成できるよう継続していく必要がある。
--	---

2 学齢思春期

事業名	食育指導者研修会（学1）				
具体的目標	学校における食育推進のための取組				
取組年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	○		○	○	○
担当課	学校教育課	関連課	小学校・中学校		
目的	学校において食の指導が計画的かつ継続的に実践できるように指導要領や、「食に関する指導の全体計画」などについて、研修会を開催する。				
取組の推移	<p>【H19】「学校における食育の実践のために」 新潟県教育庁保健体育課 佐藤元彦 様 [出席者 200名]</p> <p>【H21】「給食指導と学級づくり」 上越教育大学教職大学院 赤坂真二 様 [出席者 128名]</p> <p>【H22】「学校における食育について」 新潟県教育庁保健体育課 上澤田誠 様 [出席者 113名]</p> <p>【H23】「授業を通しての食育」 新潟大学教育学部 高木幸子様 [出席者 110名]</p>				
事業効果及び評価	<p>年間計画では、文部科学省の「食に関する指導の手引」をもとに、各学校での「食に関する指導の全体計画」の作成、または見直しを計画していたが、食育に対する意識にばらつきがあり、一斉に「食に関する指導の全体計画」に取り組むのは難しかった。そのため、指導者研修会は、学校における食育の取組への意識づけや具体的取組などを紹介する研修会内容になった。</p> <p>小中学校別の参加率は、小学校約8割、中学校約2割の参加割合である。研修会のアンケートでは、学校での食育の取組は必要である95%、地産地消への取組は必要であるとの回答が95%（H21年度研修会アンケート）あるものの、給食指導や教材として食育活動への取組については、十分に実施できていない67%などの回答が得られた。</p> <p>学校での食育の取組の必要性は、十分に浸透しているので、より取組やすくするための具体的支援などを実施していく必要がある。</p>				

事業名	学校における食に関する指導の事例集（学2）				
具体的目標	学校における食育推進のための取組				
取組年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
		○	○	○	

担当課	学校教育課	関連課	小学校・中学校		
目的	学校での食育活動の事例を収集し、学校での活用をはかる。				
取組の推移	文部科学省 食に関する指導の手引から6つの目標に分類して事例を集めた				
	【事例の報告数】				
		平成20年	平成21年	平成22年	
	食事の重要性	5事例	4事例	4事例	
	心身の健康	7事例	12事例	6事例	
	食品を選択する能力	3事例	7事例	—	
	感謝の心	3事例	2事例	3事例	
	社会性	1事例	1事例	1事例	
	食文化	10事例	9事例	4事例	
	合計	29事例	36事例	18事例	
平成21、22年度からは、事例の報告に加えて、取組事例が食育推進計画のどの目標に当てはまるかを記入してもらい、学校を取組と食育推進計画の取組の関連を分かりやすく標記した。					
事業効果及び評価	<p>事例の報告をすることにより、新たに食育の取組をする学校もあり、学校で食育への取組をする契機になったという学校もあった。</p> <p>事例集にしてすべての小中学校へ配布するとともに、市グループウェアから事例集のデータを取り込めるようにはしているが、事例の活用まで図れていないのが実際である。</p> <p>今後は、事例集の活用を図ることを合わせた情報提供を継続していく。</p>				

事業名	食育パンフレットの作成（学3）				
具体的目標		策定時の 達成状況	評価時の 達成状況	目標値	達成 度
	毎日、朝食をとる	小3 88% 小5 92% 中2 86% 高2 78%	小3 94% 小5 98% 中2 88% 高2 82%	100%	小：○ 中：○ 高：○
	毎日、排便がある	小3 56% 小5 56% 中2 17% 高2 45%	小3 63% 小5 58% 中2 44% 高2 51%	小学生 60% 中学生 20% 高校生 55%	小：◎ 中：◎ 高：○
	子どもが食や健康について関心をもつ	栄養や健康について考える 小3 36% 小5 38% 中2 49% 高2 59%	栄養や健康について考える 小3 46% 小5 58% 中2 50% 高2 55%	小学生 40% 中学生 60% 高校生 70%	小：◎ 中：○ 高：×
取組年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	○				

担当課	学校教育課	関連課	小中学校
目的	正しい生活リズムの確立や食習慣に関する食育パンフレットを作成し、指導媒体として活用をし、食育の普及に努める。		
取組の推移	<p>平成 19 年度に市内学校栄養士と学校教育課栄養士で作成をした。「バランスのよい朝ごはんをしっかりと食べる」という点にポイントを置き、指導しやすく、家庭でもすぐに活用できるような構成にした。</p> <p>5,000 部印刷し、全小中学校へ配布をした。市内高校へは、300 部送付し、幼稚園、保育園 5 歳児へも配布し、食育教室等での活用を図った。5 月の配布後、7 月に活用状況のアンケートを実施した。多くの小学校において、学級活動や授業で活用したとの回答が得られた。また、中学校においては活用する時間をとることができない、他のたよりなどと内容が同一のものが多い、授業で既に学習済みの内容であるなど、配布の時期、内容など検討する必要がある。</p> <p>使用目的に対応したパンフレットであったが、平成 20 年度以降予算がつかず、事業の継続はできなかった。以後、食育に関する媒体作成として、ポスターやレシピカードの作成を行った。</p>		
事業効果及び評価	紙媒体を配布等により活用を図りたくとも、家庭での活用状況など効果を図るのは難しい。また、配布の時期や小中学校同一の内容など、一律にするのはもっと内容を検討し、教職員が納得するような内容に仕上げなくては、配布や活用に関して学校からの協力は得られない。		

事業名	食育週間（学 4）				
具体的目標		策定時の 達成状況	評価時の 達成状況	目標値	達成 度
	毎日、朝食をとる	小 3 88% 小 5 92% 中 2 86% 高 2 78%	小 3 94% 小 5 98% 中 2 88% 高 2 82%	100%	小：○ 中：○ 高：○
	毎日、排便習慣がある	小 3 56% 小 5 56% 中 2 17% 高 2 45%	小 3 63% 小 5 58% 中 2 44% 高 2 51%	小学生 60% 中学生 20% 高校生 55%	小：◎ 中：◎ 高：○
	早寝の習慣がある	10 時前に寝る 小 3 42% 小 5 21% 睡眠時間が 7 時間以上 中 2 83% 高 2 55%	小 3 40% 小 5 27% 中 2 85% 高 2 58%	小学生 50% 中学生 90% 高校生 60%	小：○ 中：○ 高：○
取組年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
		○	○	○	

担当課	学校教育課	関連課	小中学校
目的	正しい生活リズムと朝食摂取を目指し、一週間の生活チェックを行うことにより、家庭において、子どもの生活を振り返る機会とする。		
取組の推移	<p>【H20】 6月19日を含む1週間を食育週間と位置づけ、生活チェックシートを配布した。重点目標である、早寝早起き朝ごはんに加え、排便習慣などをチェック項目に入れる。</p> <p>【H21】 市内一律に同時期での実施は、各学校においては既存の取組と重なり、中学校においてはテスト時期と重なるとの声が多く、実施時期等は学校に任せて、「朝食摂取、排便習慣、早寝の習慣」の3項目のみ学校から調査データを報告してもらう。また、希望のある学校はH20年度の生活チェックを実施した。</p> <p>【H22】 すべての小中学校から、食育週間を取組調査データの報告がある。学校ごとに、児童生徒の生活リズム等の実態を把握し、指導に役立てている。</p> <p>【H23】 H18年に実施した「食生活アンケート」の評価の年として、H23年7月に食生活アンケートを実施した。調査結果から、「朝食摂取、排便習慣、早寝の習慣」については目標値にむけて改善していた。</p>		
事業効果及び評価	取組初年度は、実施時期、チェック項目、睡眠時間の設定について課題が多く、市内一斉に取組をするのは難しいとの声が多かった。H21年度からは、調査データの報告のみ学校へお願いをしたが、調査時期や調査方法が異なるため、データを集計することは不可能である。今後も、学校ごとに生活チェックなど調査は継続していく。		

事業名	食育に関する媒体作成（食育コーナー）（学5）				
具体的目標		策定時の 達成状況	評価時の 達成状況	目標値	達成 度
	子どもが自分の食べる物の適切な摂取量と質を知っている （野菜、おやつ）	小3 19% 小5 17% 中2 18% 高2 11%	小3 16% 小5 19% 中2 10% 高2 13%	25%	小：△ 中：× 高：○
	食べ物の大切さや感謝の気持ちをもち、食事のあいさつをする	食事のあいさつをいつもしている 小3 54% 小5 48% 中2 33% 高2 28%	小3 55% 小5 58% 中2 43% 高2 37%	小学生 70% 中学生 60% 高校生 50%	小：△ 中：○ 高：○
	子どもが食や健康について関心をもつ	小3 36% 小5 38% 中2 49% 高2 59%	小3 46% 小5 58% 中2 50% 高2 55%	小学生 40% 中学生 60% 高校生 70%	小：◎ 中：○ 高：×

取組年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
		○	○	○	○
担当課	学校教育課	関連課	小学校・中学校		
目的	具体的目標にそった情報提供のための媒体を作成し、学校等から市民への食育の情報提供を行う。				
取組の推移	<p>【H20】 きちんとした間食の摂り方についての知識の普及のため、「おやつに関するポスター」を5部作成。H19年作成の食育パンフレット（朝食について）から、一部抜粋して朝食ポスター1部作成。</p> <p>【H21】 正しいマナーの身に付け、楽しく食事ができることを目的に「はしの持ち方」「食事のマナー」についてのポスターを2部作成。</p> <p>【H22】 地場農産物の知識を深める目的に、さといもとれんこんの栽培から収穫までのポスターを2部作成。併せてH20年作成の地場農産物の収穫カレンダーの活用も図る。</p> <p>【H23】 学校給食と地場農産物のPRを目的に、市内農産物直売所7か所に「学校給食レシピカード」を設置。小中学校、幼稚園の地場農産物を使った人気メニューにてカード作成。秋メニュー9種類、冬メニュー9種類。カードの裏面には、食育一口メモとして、今までの作成したポスターの一部を抜粋して掲載した。 家族そろって「いただきます」の啓発のためのポスターを4種類作製。保育園、幼稚園、小中学校、図書館等に掲示。</p>				
事業効果及び評価	作成、掲示のみでは効果は得られないので、小中学校へは指導教材として活用してもらえるよう、今後改良していく。また、指導媒体として、一覧にまとめ、学校へ活用のための周知を行う。				

事業名	広報掲載（学6）				
具体的目標		策定時の 達成状況	評価時の 達成状況	目標値	達成 度
	食事が楽しいと思う	小3 71% 小5 65% 中2 40% 高2 33%	小3 72% 小5 79% 中2 46% 高2 48%	小学生 75% 中高生 42%	小：◎ 中：◎ 高：◎
	食べ物の大切さや感謝の気持ちをもち、食事のあいさつをする	食事を残さず食べる 小3 81% 小5 78% 中2 77% 高2 85%	小3 86% 小5 91% 中2 87% 高2 91%	90%	小：○ 中：○ 高：◎
	子どもが食や健康について関心を	小3 36% 小5 38%	小3 46% 小5 58%	小学生 40%	小：◎ 中：○

	もつ	中2 49% 高2 59%	中2 50% 高2 55%	中学生 60% 高校生 70%	高:×
取組年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
				○	
担当課	学校教育課	関連課	小中学校		
目的	小中学校における、様々な食育活動を市民へPRする。				
取組の推移	<p>広報ごせん 毎月10日号</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月号 <ul style="list-style-type: none"> 五泉小学校 「米栽培」体験活動ではぐくまれる感謝の気持ち。 村松東小学校 「菜ばな栽培」見て、食べて季節を感じる学校園。 愛宕中学校 「栽培と作物」地域の皆さんから学ぶ食への知識・技術。 7月号 <ul style="list-style-type: none"> 五泉南小学校 「ハッピータイム」給食にひと工夫、校内放送でスパイスを。 山王中学校 「サツマイモ栽培」食べる役だけじゃない、栽培の大切さを学習。 8月号 <ul style="list-style-type: none"> 橋田小学校 「お弁当の日」参加してみよう、作って食べておいしさ倍増。 五泉北中学校 「食育の日」生活を振り返り、自らの気づきを大切に。 10月号 <ul style="list-style-type: none"> 五泉東小学校 「レクテデザート」自校給食をきっかけに食の経験・楽しさ広がって。 五泉中学校 「給食委員会」残さず食べよう「目指せ残乳、残食ゼロ！」。 11月号 <ul style="list-style-type: none"> 大蒲原小学校 「凛々子トマト栽培」栽培収穫の喜びから食について関心を持つ。 巢本小学校 「ゴーゴー巢本探検隊」地域に支えられ、地域とともに食の探検。 12月号 <ul style="list-style-type: none"> 村松小学校 「パワーアップ週間」食と体の関係を実感。 十全小学校 「稲作体験」地産地消の喜びを伝承。 1月号 <ul style="list-style-type: none"> 川東小学校 「サトイモ栽培」育てた喜びを味わう 川内小学校 「もち米作り」地域のきずなに感謝 川東中学校 「大芋煮大会」喜びと苦労を実感 				
事業効果及び評価	連載をすることにより、継続的な学校での特色ある食育の取組を広く一般の方に情報提供することができた。				

事業名	地産地消月間の開催（学7）				
具体的目標		策定時の 達成状況	評価時の 達成状況	目標値	達成 度

	食べ物の大切さや感謝の気持ちをもち、食事のあいさつをする	食事を残さず食べる 小3 81% 小5 78% 中2 77% 高2 85%	小3 86% 小5 91% 中2 87% 高2 91%	90%	小:○ 中:○ 高:◎
	子どもが自分の食べる物の適切な摂取量と質を知っている (野菜)	自分にあった野菜摂取量を知っている 小3 24% 小5 23% 中2 16% 高2 27%	小3 74% 小5 73% 中2 44% 高2 50%	50%	小:◎ 中:× 高:◎
取組年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
				○	○
担当課	学校教育課	関連課	小中学校		
目的	地産地消の推進として、学校給食で地場農産物を豊富に使った統一メニューを実施し、児童生徒に対して地場農産物のおいしさや様々な調理法などを紹介し、家庭においても地産地消への関心を高める契機とする。				
取組の推移	<p>【H22】11月30日実施 (献立) ごはん・五泉汁・れんこんハンバーグ・菊入おひたし・牛乳</p> <p>【H23】11月22日実施 (献立) ごはん・大根と海の幸スープ・いもみそグラタン(いもみそコロッケ) 五泉野菜サラダ・キウイ・牛乳</p> <p>H22年度は、学校栄養士が献立を作成。H23年度は、8月に学校給食調理コンクールに参加し、優秀賞を受賞したメニューをアレンジした献立だった。</p>				
事業効果及び評価	実施後のアンケートからは、学校、関係機関において、地産地消を推進することへの理解が深まるとの意見が多く寄せられた。来年度以降への、事業継続に際し、改善検討事項もあり、今後の取組に活かしながら、事業内容の充実につとめる。				

3 成人期

事業名	地場農産物を使った食育料理講習会(学8・成1)				
具体的目標		策定時の 達成状況	評価時の 達成状況	目標値	達成 度
	食事が楽しいと思う。(学齢)	小3 71% 小5 65% 中2 40% 高2 33%	小3 72% 小5 79% 中2 46% 高2 48%	小学生 75% 中高生 42%	小:◎ 中:◎ 高:◎
	食べ物の大切さや感謝の気持ちをもち、食事のあいさつをする。(学齢)	食事のあいさつをいつもしている 小3 54% 小5 48% 中2 33% 高2 28%	食事のあいさつをいつもしている 小3 55% 小5 58% 中2 43% 高2 37%	小学生 70% 中学生 60% 高校生 50%	小:△ 中:○ 高:○
	子どもが食に関するお手伝いをする。(学齢)	小3 49% 小5 52% 中2 50% 高2 54%	小3 50% 小5 53% 中2 55% 高2 60%	70%	小:○ 中:× 高:○

	子どもが食や健康について関心をもつ。(学齢)	小3 36% 小5 38% 中2 49% 高2 59%	小3 46% 小5 58% 中2 50% 高2 55%	小学生 40% 中学生 60% 高校生 70%	小:◎ 中:○ 高:×																																																																																																									
	地域において食を通じた交流と食文化の伝承を図る。(成人)	地域と学校の食を通じた交流会の開催 6校	H19～23年 実施校数 33校 延べ参加人数 2,268人	増加	◎																																																																																																									
取組年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度																																																																																																									
	○	○	○	○	○																																																																																																									
担当課	健康福祉課 学校教育課	関連課 関係団体	小中学校 五泉市食生活改善委員会																																																																																																											
目的	小・中学生を対象として郷土料理や地産地消などの、食に関する興味や関心を高めるため、料理実習のような体験を中心とした講習会を行う。																																																																																																													
取組の推移	<p>【H19】 (5校9クラス 260名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>対象</th> <th>献立</th> <th>実施回数</th> <th>参加食推</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>五泉小学校</td> <td>3年生(111名)</td> <td>のっぺい</td> <td>3回</td> <td>24名</td> </tr> <tr> <td>巢本小学校</td> <td>4年生(25名)</td> <td>のっぺい</td> <td>1回</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>川内小学校</td> <td>3年生(14名)</td> <td>さといもチップ</td> <td>1回</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>十全小学校</td> <td>5年生(16名)</td> <td>雑煮</td> <td>1回</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>山王中学校</td> <td>2年生(94名)</td> <td>のっぺい</td> <td>3回</td> <td>20名</td> </tr> </tbody> </table> <p>【H20】 (6校15クラス 380名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>対象</th> <th>献立</th> <th>実施回数</th> <th>参加食推</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>五泉小学校</td> <td>3年生(97名)</td> <td>のっぺい</td> <td>3回</td> <td>24名</td> </tr> <tr> <td>巢本小学校</td> <td>3年生(18名)</td> <td>のっぺい他</td> <td>1回</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>橋田小学校</td> <td>5年生(19名)</td> <td>のっぺい・朝食</td> <td>2回</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>3年生(14名)</td> <td>のっぺい</td> <td>1回</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>川内小学校</td> <td>5年生(17名)</td> <td>朝食・味噌汁</td> <td>1回</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>大蒲原小学校</td> <td>5年生(18名)</td> <td>のっぺい</td> <td>1回</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>6年生(19名)</td> <td>のっぺい</td> <td>1回</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>五泉中学校</td> <td>2年生(178名)</td> <td>のっぺい</td> <td>5回</td> <td>20名</td> </tr> </tbody> </table> <p>【H21】 (7校16クラス 508名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>対象</th> <th>献立</th> <th>実施回数</th> <th>参加食推</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>五泉小学校</td> <td>3年生(100名)</td> <td>のっぺい</td> <td>3回</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>五泉南小学校</td> <td>6年生(108名)</td> <td>いも煮・和え物</td> <td>3回</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>村松東小学校</td> <td>6年生(43名)</td> <td>煮びたし他</td> <td>1回</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>5年生(43名)</td> <td>のっぺい</td> <td>1回</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>大蒲原学校</td> <td>6年生(17名)</td> <td>いもみそ・和え物</td> <td>1回</td> <td>4名</td> </tr> </tbody> </table>					学校名	対象	献立	実施回数	参加食推	五泉小学校	3年生(111名)	のっぺい	3回	24名	巢本小学校	4年生(25名)	のっぺい	1回	4名	川内小学校	3年生(14名)	さといもチップ	1回	3名	十全小学校	5年生(16名)	雑煮	1回	2名	山王中学校	2年生(94名)	のっぺい	3回	20名	学校名	対象	献立	実施回数	参加食推	五泉小学校	3年生(97名)	のっぺい	3回	24名	巢本小学校	3年生(18名)	のっぺい他	1回	3名	橋田小学校	5年生(19名)	のっぺい・朝食	2回	4名	〃	3年生(14名)	のっぺい	1回	5名	川内小学校	5年生(17名)	朝食・味噌汁	1回	2名	大蒲原小学校	5年生(18名)	のっぺい	1回	2名	〃	6年生(19名)	のっぺい	1回	2名	五泉中学校	2年生(178名)	のっぺい	5回	20名	学校名	対象	献立	実施回数	参加食推	五泉小学校	3年生(100名)	のっぺい	3回	18名	五泉南小学校	6年生(108名)	いも煮・和え物	3回	18名	村松東小学校	6年生(43名)	煮びたし他	1回	6名	〃	5年生(43名)	のっぺい	1回	6名	大蒲原学校	6年生(17名)	いもみそ・和え物	1回	4名
学校名	対象	献立	実施回数	参加食推																																																																																																										
五泉小学校	3年生(111名)	のっぺい	3回	24名																																																																																																										
巢本小学校	4年生(25名)	のっぺい	1回	4名																																																																																																										
川内小学校	3年生(14名)	さといもチップ	1回	3名																																																																																																										
十全小学校	5年生(16名)	雑煮	1回	2名																																																																																																										
山王中学校	2年生(94名)	のっぺい	3回	20名																																																																																																										
学校名	対象	献立	実施回数	参加食推																																																																																																										
五泉小学校	3年生(97名)	のっぺい	3回	24名																																																																																																										
巢本小学校	3年生(18名)	のっぺい他	1回	3名																																																																																																										
橋田小学校	5年生(19名)	のっぺい・朝食	2回	4名																																																																																																										
〃	3年生(14名)	のっぺい	1回	5名																																																																																																										
川内小学校	5年生(17名)	朝食・味噌汁	1回	2名																																																																																																										
大蒲原小学校	5年生(18名)	のっぺい	1回	2名																																																																																																										
〃	6年生(19名)	のっぺい	1回	2名																																																																																																										
五泉中学校	2年生(178名)	のっぺい	5回	20名																																																																																																										
学校名	対象	献立	実施回数	参加食推																																																																																																										
五泉小学校	3年生(100名)	のっぺい	3回	18名																																																																																																										
五泉南小学校	6年生(108名)	いも煮・和え物	3回	18名																																																																																																										
村松東小学校	6年生(43名)	煮びたし他	1回	6名																																																																																																										
〃	5年生(43名)	のっぺい	1回	6名																																																																																																										
大蒲原学校	6年生(17名)	いもみそ・和え物	1回	4名																																																																																																										

	〃	5年生(22名)	のっぺい	1回	4名
	川内小学校	3年生(18名)	煮物・チップス	1回	4名
	十全小学校	6年生(16名)	冷汁・サラダ	1回	4名
	五泉中学校	2年生(141名)	のっぺい	4回	32名
【H22】 (7校 16クラス 513名)					
	学校名	対象	献立	実施回数	参加食推
	五泉南小学校	6年生(80名)	いもみそ・きんぴら	2回	16名
	五泉東小学校	6年生(47名)	お弁当作り	1回	6名
	十全小学校	4年生(10名)	煮っ転がし	1回	2名
	〃	3年生(12名)	いもみそ・きぬかつぎ	1回	2名
	村松小学校	6年生(80名)	いもみそ・きんぴら	2回	11名
	五泉北中学校	3年生(142名)	さといもお好み焼・ さといも蒸しパン	4回	24名
	〃	2年生(142名)	のっぺい	4回	24名
【H23】 (8校 22クラス 607名)					
	学校名	対象	献立	実施回数	参加食推
	五泉小学校	3年生(104名)	のっぺい	3回	24名
	五泉東小学校	6年生(45名)	お弁当作り	1回	6名
	川東小学校	6年生(53名)	のっぺい・お好み焼き	1回	8名
	村松小学校	6年生(69名)	煮物	2回	12名
	大蒲原小学校	6年生(20名)	のっぺい	3回	20名
	〃	5年生(18名)	味噌汁他	1回	4名
	十全小学校	6年生(11名)	のっぺい	1回	3名
	〃	3年生(7名)	いもみそ・お好み焼き	1回	2名
	川内小学校	4年生(11名)	きりざい・ケーキサレ	1回	3名
	五泉北中学校	2年生(119名)	のっぺい	4回	24名
	〃	1年生(150名)	沢煮椀	4回	24名
事業効果及び評価	<p>料理講習会は地場農産物に対する子どもたちの関心を高めるのに有効な体験であり、学校等からの要望も多い。</p> <p>講習会に参加して「地場農産物」「食」に興味を持ちましたか、家で講習会のこと地場農産物の話をしましたか、などの項目において、いずれも「はい」と回答する児童生徒が多く、料理講習会は地場農産物・食に関する興味関心を高める効果があったといえる。また、家で講習会のことを話すことで、郷土料理や地場農産物についての伝承の場となると同時に、話題として家族団らんを作る効果もあると考えられる。</p>				

事業名	新潟県健康づくり支援店普及事業（成2）				
具体的目標			策定時の 達成状況	評価時の 達成状況	目標値 達成度
	エネルギーのとり過ぎを防ぐ		BMI25以上の 有所見率 市 22.9% 男 25.6% 女 24.1% 男性…20～60歳代 女性…40～60歳代	BMI25以上の 有所見率 市 23.0% 男 24.3% 女 22.0% 40～74歳 H17年基本健康診査と同 条件 市 24.2% 男 27.0% 女 22.2% 男性…20～60歳代 女性…40～60歳代	男性15% 以下 女性20% 以下 ×
	毎食、副菜をとる		野菜の摂取量が 350g以下の人 市 8.3% 男 12.0% 女 6.5%	野菜の摂取量が 350g以下の人 市 39.5% 男 38.6% 女 41.5%	〔市〕 7%以下 ×
	塩分摂取量を減らす		みそ汁を1日3杯 以上飲む人 市 29.2% 男 41.6% 女 24.2%	みそ汁を1日3杯 以上飲む人 市 11.0% 男 14.9% 女 7.1%	〔市〕 20%以下 ◎
取組年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	○	○	○	○	○
担当課	健康福祉課	関連課	新潟地域振興局健康福祉部（新津保健所）		
目的	家庭の食事だけでなく飲食店等が健康づくりに関わり、市民に適切な栄養情報を提供し、市民自らが健康管理を行える食の環境整備を目的とする。				
取組の推移		加盟店数	募集のための取組及び加盟店で取組		
	H19	7店舗	<ul style="list-style-type: none"> ・商工会、商工会議所からのチラシ配布 ・事業所別に事業説明 ・広報掲載 ・グループインタビュー 		
	H20	28店舗	<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生協会総会にて登録意向アンケートを実施 		
	H21	33店舗	<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生協会、商工会理事会での協力依頼 ・広報での連載による店舗紹介 ・食推理事会での紹介と意見交換会 ・食品衛生協会 健康支援メニュー講習会での検討及び意見交換会 		
	H22	36店舗	<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生協会、商工会理事会での協力依頼 ・広報での連載による店舗紹介 ・加盟店舗を対象に地場農産物を使った健康支援メニュー講習会の実施（2回・9店舗参加） 		

	H23	39 店舗	<ul style="list-style-type: none"> ・広報での新規登録店舗紹介 ・地場農産物&ヘルシーメニュー提供プロジェクトの開催（期間中はキャンペーンPR 試食実施 チューリップまつり・農業祭） ・支援店の拡大と健康支援メニューの地産地消月間への取組
事業効果及び評価	<p>「健康づくり支援店アンケート」より 平成 23 年 3 月実施（回答 12 店）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客様の反応はありましたか <p>健康づくり支援店について質問を受けた…25% 栄養成分表示を見ているようだ…50% 栄養成分表示について聞かれたことがある…25% ヘルシーメニューの注文が増えた…8% 量や味の調整の注文が増えた…17%</p> <p>アンケートより、健康情報や健康サービスを活用した顧客や、意識している顧客が増加した、従業員の健康意識も向上したという声もあり、健康づくり支援店として市民の健康づくりに効果を示しているといえる。</p> <p>「地産地消料理おもてなしキャンペーンアンケート」（市内在住者の回答）</p> <p>H23 年 4 月（チューリップ祭り会場）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「健康づくり支援店」を知っていましたか？ <p>以前から知っている 33% 知らなかった 67% 無回答 1%</p> <p>H23 年 11 月（農業祭り会場）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「健康づくり支援店」を知っていましたか？ <p>以前から知っている 53% 知らなかった 47%</p> <p>アンケートより、「以前から知っている」の割合が 20%増加しており、健康づくり支援店の認知度の高まりがみられたので、環境整備が徐々にできてきたといえる。</p> <p>※アンケート実施場所が異なり、対象者の条件は異なる</p>		

事業名	五泉市食育応援団（成 3）																
具体的目標		策定時の 達成状況	評価時の 達成状況	目標値	達成 度												
エネルギーのとり過ぎを防ぐ		BMI25 以上の 有所見率 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>22.9%</td></tr> <tr><td>男</td><td>25.6%</td></tr> <tr><td>女</td><td>24.1%</td></tr> </table> 男性…20～60 歳代 女性…40～60 歳代	市	22.9%	男	25.6%	女	24.1%	BMI25 以上の 有所見率 <table border="1"> <tr><td>市</td><td>23.0%</td></tr> <tr><td>男</td><td>24.3%</td></tr> <tr><td>女</td><td>22.0%</td></tr> </table> 40～74 歳 H17 年基本健康診査と同 条件	市	23.0%	男	24.3%	女	22.0%	男性 15% 以下 女性 20% 以下	×
市	22.9%																
男	25.6%																
女	24.1%																
市	23.0%																
男	24.3%																
女	22.0%																

				市 24.2% 男 27.0% 女 22.2% 男性…20～60歳代 女性…40～60歳代																	
	毎食、副菜をとる	野菜の摂取量が 350g以下の人 市 8.3% 男 12.0% 女 6.5%	野菜の摂取量が 350g以下の人 市 39.5% 男 38.6% 女 41.5%	[市] 7%以下		×															
	塩分摂取量を減らす	みそ汁を1日3杯 以上飲む人 市 29.2% 男 41.6% 女 24.2%	みそ汁を1日3杯 以上飲む人 市 11.0% 男 14.9% 女 7.1%	[市] 20%以下		◎															
取組年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度																
		○	○	○	○																
担当課	健康福祉課	関連課																			
目的	より多くの市民への食育や健康づくりに関する情報提供の発信源を増やすために、健康づくり支援店だけではなく、企業や飲食店以外の店舗からも情報提供を行う。																				
取組の推移	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>加盟店数</th> <th>募集のための取組</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H20</td> <td>64店舗</td> <td>・食品衛生協会、商工会理事会での協力依頼 ・理容、美容組合、燃料組合への働きかけ</td> </tr> <tr> <td>H21</td> <td>118店舗</td> <td>・食品衛生協会、商工会理事会での協力依頼 ・郵便局、薬剤師会、燃料組合、理容組合へ協力依頼 ・広報掲載 ・農業まつり、お茶の間サロンでのチラシ配布 ・食推理事会での紹介と意見交換会 ・PR用ミニのぼり旗の作成、配布</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>135店舗</td> <td>・食品衛生協会、商工会理事会での協力依頼 ・JA、菓子組合、自動車組合などへ協力依頼 ・広報掲載</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>142店舗</td> <td>・ガソリンスタンド・自動車整備工場・地場産農産物直売所への協力依頼 ・食育応援団アンケート実施（H23.3月） ・広報掲載</td> </tr> </tbody> </table>							加盟店数	募集のための取組	H20	64店舗	・食品衛生協会、商工会理事会での協力依頼 ・理容、美容組合、燃料組合への働きかけ	H21	118店舗	・食品衛生協会、商工会理事会での協力依頼 ・郵便局、薬剤師会、燃料組合、理容組合へ協力依頼 ・広報掲載 ・農業まつり、お茶の間サロンでのチラシ配布 ・食推理事会での紹介と意見交換会 ・PR用ミニのぼり旗の作成、配布	H22	135店舗	・食品衛生協会、商工会理事会での協力依頼 ・JA、菓子組合、自動車組合などへ協力依頼 ・広報掲載	H23	142店舗	・ガソリンスタンド・自動車整備工場・地場産農産物直売所への協力依頼 ・食育応援団アンケート実施（H23.3月） ・広報掲載
	加盟店数	募集のための取組																			
H20	64店舗	・食品衛生協会、商工会理事会での協力依頼 ・理容、美容組合、燃料組合への働きかけ																			
H21	118店舗	・食品衛生協会、商工会理事会での協力依頼 ・郵便局、薬剤師会、燃料組合、理容組合へ協力依頼 ・広報掲載 ・農業まつり、お茶の間サロンでのチラシ配布 ・食推理事会での紹介と意見交換会 ・PR用ミニのぼり旗の作成、配布																			
H22	135店舗	・食品衛生協会、商工会理事会での協力依頼 ・JA、菓子組合、自動車組合などへ協力依頼 ・広報掲載																			
H23	142店舗	・ガソリンスタンド・自動車整備工場・地場産農産物直売所への協力依頼 ・食育応援団アンケート実施（H23.3月） ・広報掲載																			
事業効果及び評価	「食育応援団アンケート」 H23年3月実施（回答56） ・食育応援団に送付したポスター・チラシ・パンフレット等の活用状況 持ち帰ってもらった…42% 施設内で見てもらった…49% その他…9% ・顧客や社員のポスター、チラシ、パンフレット等を見ての感想や反応はいかがでしたか																				

4 地産地消の推進

事業名	給食供給体制整備事業（地1）																									
具体的目標			策定時の 達成状況	評価時の 達成状況	目標値	達成 度																				
	JAを中心とした供給体制を確立し、地場農産物を積極的に使用する		<ul style="list-style-type: none"> 学校給食における地場産野菜利用率（H17）*重量ベース <table border="1"> <tr> <td>五泉地区</td> <td>村松地区</td> <td>全体</td> </tr> <tr> <td>20%</td> <td>5%</td> <td>16%</td> </tr> </table> 幼稚園・保育園における給食での地場産野菜利用率（H17）*重量ベース <table border="1"> <tr> <td>幼稚園</td> <td>17.8%</td> </tr> <tr> <td>保育園</td> <td>4.1%</td> </tr> </table> 	五泉地区	村松地区	全体	20%	5%	16%	幼稚園	17.8%	保育園	4.1%	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食における地場産野菜利用率（H23）*重量ベース <table border="1"> <tr> <td>五泉地区</td> <td>村松地区</td> <td>全体</td> </tr> <tr> <td>22%</td> <td>14.5%</td> <td>20%</td> </tr> </table> 幼稚園・保育園における給食での地場産野菜利用率（H23）*重量ベース <table border="1"> <tr> <td>幼稚園</td> <td>8.4%</td> </tr> <tr> <td>保育園</td> <td>6.7%</td> </tr> </table> 	五泉地区	村松地区	全体	22%	14.5%	20%	幼稚園	8.4%	保育園	6.7%	25%	○
	五泉地区	村松地区	全体																							
20%	5%	16%																								
幼稚園	17.8%																									
保育園	4.1%																									
五泉地区	村松地区	全体																								
22%	14.5%	20%																								
幼稚園	8.4%																									
保育園	6.7%																									
給食への食材提供のための営農計画を立てる		既存の計画はない		供給体制整備に関する検討報告書作成	計画を立てる	○																				
取組年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度																					
		○	○	○	○																					
担当課	農林課	関連課 関係団体	学校教育課 小中学校 子ども課 保育園 JA よりね家																							
目的	給食における地場農産物の安定供給と利用拡大を目指す。																									
取組の推移	<p>【H20】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成20年度五泉市地産地消推進連絡会を開催。（8/26） 川東小中学校給食施設、地場農産物供給開始。 （村松地区4校、五泉地区 給食センター、自校式4校 幼稚園1園） <p>【H21】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成21年度五泉市地産地消推進連絡会を開催。（7/16・8/19・12/22） 諸課題について検討、協議、意見交換を実施。 <p>【H22】</p> <ul style="list-style-type: none"> H21年度の検討結果を基本として、学校給食における地場農産物の利用を推進。 保育園での、地場農産物の利用の導入検討開始。 五泉東小学校、地場農産物供給開始。 （村松地区4校・五泉地区 給食センター 自校式5校 幼稚園1園） <p>【H23】</p> <ul style="list-style-type: none"> すみれ保育園にて、地場農産物供給開始。 関係者による意見交換会開催（8/23 3/19） 大蒲原小学校、地場農産物供給開始。 村松地区5校・五泉地区 給食センター 自校式5校 幼稚園1園 保育園1園） 																									

	○地場農産物利用率					
		H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
	小中学校	16.7%	19.6%	26.0%	19.0%	19.5%
	幼稚園	22.1%	25.7%	17.2%	10.7%	8.4%
	保育園	7.3%	8.7%	6.7%	5.1%	6.7%
事業効果及び評価	<p>地場農産物の利用を推進するため、納品等のルール作りを行い、給食現場と生産・流通現場の調整を図ったことにより、取り組み学校数は増加してきた。しかし、地場産農産物の利用率は少し減少してきているため、課題を解決していく必要がある。</p>					

事業名	食育ボランティアの募集（地2）				
具体的目標		策定時の 達成状況	評価時の 達成状況	目標値	達成 度
	消費者との信頼関係の構築や 交流を推進する	食育ボランティア の登録数 3名	4名	16名	○
取組年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	○	○	○	○	○
担当課	農林課	関連課	新潟県		
目的	<p>様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」選択する力を習得し、健全な食生活の実践ができる人間を育てる食育を推進するために、新潟県が実施している学校や地域活動における食育活動を支援するための「食育ボランティア制度」を活用する。</p>				
取組の推移	【H19】 ・登録者数 3名				
事業効果及び評価	<p>学校等での活用事例もあり、たいへん有意義な活動であるが、まだまだ食育ボランティアを活用する事例は少なく、ボランティアへの関心も低いため、登録も伸びなかった。</p>				

事業名	生産者との交流（地3）				
具体的目標		策定時の 達成状況	評価時の 達成状況	目標値	達成 度
	生産者の安全、安心に対する意識を 高める	○特別栽培農産物 等面積 22ha	71.9ha	100ha	○
		○エコファーマー 認定者数 29人	247人	90人	◎
消費者との信頼関係の 構築や交流の推進を図る	○食育ボランティア 登録者数 3人	4人	16人	○	

	地場農産物の販売量を増やす	○直売所等における 地場農産物の販売額 146,000千円	273,401千円	260,000 千円	◎
	消費者ニーズを捉え対応する ⇒旬の野菜を新鮮なうちに食べられること	25.7%	—	30%	
取組年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
	○	○	○	○	○
担当課	農林課	関連課	学校教育課・こども課		
目的	給食試食会の開催等により、農産物生産者と給食関係者が交流を持つことで、食の大切さや農産物の安全に対する意識を高める。				
取組の推移	<p>【H21】</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食関係者が農涼祭、女性農業者の集いに参加し、農産物生産者と意見交換等を行う。 グリーンレディースを講師に、学校給食調理員研修会を開催する。 J A新潟みらい園芸連の協力のもと、五泉市学校栄養士研修会にてレンコンの圃場やさといもの収穫の様子などを見学。 <p>【H22】</p> <ul style="list-style-type: none"> さくらドリームを講師に、学校給食調理員研修会を開催する。 保育園において、地場農産物を使ったおやつ作りを開催する。 <p>【H23】</p> <ul style="list-style-type: none"> 女性農業者の集いにて、給食レシピカードの設置の依頼をし、7つの農産物直売所へ学校給食レシピカードを設置する。 				
事業効果及び評価	イベント等を通じて、生産者と消費者、学校給食関係者の交流を深めることができた。また、生産者の安全・安心の意識も高まってきており、事業効果が高かった。				

事業名	地産地消月間（地4）				
具体的目標		策定時の 達成状況	評価時の 達成状況	目標値	達成 度
	市民が「地産地消」という言葉を知っている	59.7%	77.3%	85%	○
	若年層消費者が地場農産物に関心をもち、積極的に利用する	7%	5%	15%	△
取組年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
				○	○
担当課	農林課	関連課	健康福祉課	こども課	学校教育課
目的	地場農産物を使った野菜料理を広く市民に知ってもらうために、イベント等にて試食も含めた、地場農産物のPRを実施する。				
取組の推移	<p>【H22】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校給食において、「地産地消の日」の開催。 				

	・農業まつりにおいて、食育、地産地消レシピのPR、地場農産物を使った給食人気メニューの試食の実施。
事業効果及び評価	目標値に届かなかったものの認知度も上がっており、地産地消を広くアピールできた。

5 広報宣伝

事業名	食育講演会				
具体的目標					
取組年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
		○			
担当課	学校教育課	関連課	健康福祉課 こども課 農林課 高齢福祉課 商工観光課 生涯学習課 企画政策課 新潟地域振興局健康福祉部		
目的	地域の食育への関心を高めるとともに、食育についての知識と実践のための啓発を行う。特に子育て世代の市民への子どもの食の大切さ、地産地消も含めた情報提供を行う。				
取組の推移	<p>【開催日】 H20年10月13日（月・体育の日）</p> <p>【会場】 五泉市総合会館 中ホール</p> <p>【テーマ】 親から子へ伝えたい食とことば ～「いただきます」「ごちそうさま」に心をこめて～</p> <p>【講師】 木村まさ子氏（レストランオーナー）</p> <p>【入場者数】 約1,300名</p> <p>【その他】 託児、要約筆記、食育・地産地消パネル展示、農産物直売の実施</p> <p>開催にあたり、関連課において実行委員会を立ち上げ、4回の事前打ち合わせを開催。ポスター掲示や整理券配布など、小中学校、保育園、幼稚園、高等学校、医師会、歯科医師会、薬剤師会、商工会議所、商工会、JA新潟みらい他、多数に依頼。</p>				
事業効果及び評価	<p>講師からは、「いただきます」の言葉に込められた意味や命のつながりなど、食育の根本ともいえる部分に触れる講話がありました。穏やかで温かく、そして力強く、心に響くお話で、来場者の多くは何度も頷いたり、中には涙ぐみながら聴いておられる方も見受けられました。</p> <p>ギャラリー含めて約800席用意をしましたが、市内外から約1,300名の方が来場した。（アンケート提出501名中、市内55%市外45%、50代29% 40代22% 60代21%、講演内容 大変良かった52% よかった30%）</p> <p>多額の予算を伴う事業であるため、毎年事業を実施していくことは難しいが、今後も食育講演会の開催を視野に入れながら、市全体の食育の取組や情報提供の場を調整していく。</p>				

事業名	食育だよりの発行				
具体的目標	<p>【乳幼児期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事のあいさつをする・就学前にはしを正しく使う・保育者が食事のマナーを意識する・毎日朝食をとる・早寝の習慣がある・主食、主菜、副菜の3つの献立が揃う・保育者がおやつとの与えかたを意識する <p>【学齢思春期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物の大切さや感謝の気持ちをもち、食事のあいさつをする・毎日朝食をとる・毎日排便習慣がある・早寝の習慣がある・小どもが自分の食べる物の適切な摂取量と質を知っている・子どもが食や健康について関心をもつ <p>【成人期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーのとり過ぎを防ぐ・毎食副菜をとる・塩分摂取量を減らす <p>【地産地消】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が「地産地消」という言葉を知っている・若年消費者が地場農産物に関心を持ち、積極的に利用する 				
取組年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
	○	○	○	○	○
担当課	学校教育課	関連課	こども課 健康福祉課 農林課 小中学校 幼稚園 保育園 高等学校		
目的	市民へ食育に関する情報提供をし、広く食育を普及する。				
取組の推移	<p>【H19】</p> <p>地域版 12月 広報折込み 18,000部</p> <p>子ども版 12月 小中学校、幼稚園、保育園を通じ配布 4,300部 ⇒H19年度配布合計 22,300部</p> <p>【H20】</p> <p>地域版 11・3月 食育応援団（64店舗）から配布 各1,280部</p> <p>子ども版 12月 小中学校、幼稚園保育園を通じ配布 4,300部 ⇒H20年度配布合計 6,860部</p> <p>【H21】</p> <p>地域版 6・7・9・12月 食育応援団（118店舗）から配布 各2,360部</p> <p>子ども版 10・1月 小中学校、幼稚園保育園を通じ配布 各4,300部 ⇒H21年度配布合計 18,040部</p> <p>【H22】</p> <p>地域版 9・12月 食育応援団（135店舗）から配布 各2,700部</p> <p>子ども版 10・1月 小中学校、幼稚園保育園を通じ配布 各4,300部 ⇒H22年度配布合計 約14,000部</p> <p>【H23】</p> <p>地域版 6・7・10・1月 食育応援団（142店舗）から配布 各2,840部</p> <p>本庁、支所、図書館、支援センター、商工会議所から配布 各860部</p> <p>農業まつり、さといもまつり等の農業イベントでの配布 1,000部</p>				

	<p>子ども版 6・12・2月 小中学校、幼稚園保育園、高等学校、私立園を通じ配布 各 7,650 部 ⇒H23 年度配布合計 約 38,750 部 ・専用ホルダーを購入し、食育だよりが目立つように設置をした。</p>
事業効果及び評価	<p>配布時期や重点目標に沿った内容で紙面を作り、配布をしている。地域版H23年10月号では、食育応援団の2事業所から、記事の内容を事業に活用してもよいかとの問い合わせや、図書館では当初設置した枚数がなくなり追加が欲しいとの声があった。紙面作成については、H22年度まで学校教育課が行っていたが、H23年度からは、健康福祉課と子ども課にも作成を依頼し、さまざまな視点からの紙面構成を心掛けた。高等学校や私立園にも配布を依頼し、より多くの市民の目に触れるようにした。</p>

第4章 第二次食育推進計画目標及び目標値

平成19年度から平成23年度まで5年間にわたって、様々な取組を通じて食育を推進してきました。平成23年度に実施したアンケート等をもとにして、目標と取組の評価を実施した結果を第3章までにまとめました。第4章では、評価を受け、目標の達成状況や事業効果などを検討し、第二次食育推進計画として、新たに目標、目標値を設定いたしました。☆印は、新規目標です。

1 乳幼児期

五泉市が目指すもの		調査データ (H18.19)	調査データ (H23年)	目標値 (H28年)	主な取組・事業名	
大人が子どもの姿に関心をもち、健全で豊かな人間性を育む	家族みんなでマナーを守って食事をする	1日1回は大人と食事をする	90%	91%	95%	①指導者研修会 ②食育教室の開催 ③保護者主体型食育教室の継続 ・食育パンフレットの活用 ④早寝早起き朝ごはん運動の実施 (食育週間) ・食育教室の開催 ・食育週間の実施 ・食育パンフレットの活用 ・幟旗の活用 ⑤幟旗の作成 ⑥視察研修 ⑦媒体リストの作成
		就学前に、はしを正しく使う	28%	42%	50%	
		食事中はテレビを消す	27%	ほとんどつけてない55%	つけていない・ほとんどつけていない60%	
	子どもの生活リズムを確立させ、いきいきと過ごす	早寝の習慣がある (9時までに布団に入る)	いつも 10% だいたい 25%	いつも 21% だいたい 36%	毎日 31% 週4日以上 46%	
		☆早起きをする (7時までに起きる)		いつも 55% だいたい 34%	毎日 60% 週4日以上 40%	
		毎日、朝食をとる	88%	74%	88%	
		☆主食・主菜・副菜のそろった朝食を食べる	現状値なし	48% (H24食育週間生活チェックアンケート)	55%	

大人が子どもの姿に関心を持ち 健全で豊かな人間性を育む	家族みんなでマナーを守って食事をする	離乳食が順調に進んでいる 【判断基準】 ① 1日2～3回食 ② おかゆを毎日食べている ③ たんぱく質を2回以上食べたことがある (魚・肉・卵・大豆乳製品)	85%	75%	80%	≪年間の共通取組≫ 野菜栽培・食育だよりの発行 給食だよりの発行・資料掲示 乳幼児健診での情報提供 離乳食講習会 フッ素塗布事業・フッ素洗口事業 むし歯予防教室・マタニティセミナー <u>乳幼児期班共通取組</u> ●食育担当者会議の開催
		よくかんで食べる	86%	74%	86%	
		保育者がおやつの与え方を意識する (時間、内容、量)	時間を決めている →五泉 28%村松 28% 栄養に注意している →五泉 6.8%村松 3.2% 甘いものを少なく →五泉 5.7%村松 9.2%	時間を決めている →48% 栄養に注意している →10% 甘いものを少なく →22%	時間を決めている →55% 栄養に注意している →12% 甘いものを少なく →25%	

2 学齢思春期

五泉市が目指すもの		調査データ (H18. 19)	調査データ (H23 年)	目標値 (H28 年)	主な取組・事業名
家族一緒にの食卓で心と体を育む	子どもが家族と一緒に食事をする	1日一回以上は、大人と食事をとる 小3 93% 小5 90% 中2 66% 高2 54%	小3 90% 小5 89% 中2 70% 高2 53%	小学校 95% 中学校 70% 高校 60%	①地場農産物を使った食育料理教室の開催 ・「新」親子料理教室開催(小学校低・中学年対象)
		食事のあいさつをいつもしている 小3 54% 小5 48% 中2 33% 高2 28%	食事のあいさつをいつもしている 小3 55% 小5 58% 中2 43% 高2 37%	食事のあいさつをいつもしている 小学校 70% 中学校 60% 高校 50%	②食育ポスター・パンフレット(19年作成)の活用。 ・PTA活動での食育教室や給食試食会等にて、媒体の活用を図る
		食事を残さず食べる 小3 81% 小5 78% 中2 77% 高2 85%	食事を残さず食べる 小3 86% 小5 91% 中2 87% 高2 91%	食事を残さず食べる 92%	・平成25年度いただきますカード各家庭に配布予定

家族一緒にの食卓で心と体を育む	食事を一緒にする	子どもが家族と一緒に	子どもが食に関する	子どもが食に関するお手伝いをする	小3 49% 小5 52% 中2 50% 高2 54%	小3 50% 小5 53% 中2 55% 高2 60%	65%	
	快適な生活を送る	生活リズムを整え、	子どもに	毎朝、朝食をとる	小3 88% 小5 92% 中2 86% 高2 78%	小3 94% 小5 98% 中2 88% 高2 82%	100%	③生活チェックの実施
				毎日、排便習慣がある	小3 56% 小5 56% 中2 17% 高2 45%	小3 63% 小5 58% 中2 44% 高2 51%	小学校 65% 中学校 50% 高校 55%	④給食レシピカードの作成 (裏面食育一口メモ…朝食、生活リズム等)
				早寝の習慣がある。 ・10時前に寝る(小学生) ・11時前に寝る(中・高校生)	10時前に寝る 小3 42% 小5 21% 睡眠時間が7時間以上 中2 83% 高2 55%	10時前に寝る 小3 40% 小5 27% 睡眠時間が7時間以上 中2 85% 高2 58%	小学校 50% 中学校 90% 高校 60%	○食育ポスター・パンフレットの活用
	健やかに成長する	子どもに	子どもに	夕食で主食・主菜・副菜が揃っている	夕食で主食・主菜・副菜が揃っている 小3 80% 小5 76% 中2 61% 高2 58%	夕食で主食・主菜・副菜が揃っている 小3 69% 小5 74% 中2 54% 高2 53%	夕食で主食・主菜・副菜が揃っている 小学校 90% 中学校 70% 高校 70%	○食育ポスター・パンフレットの活用 ④給食レシピカード作成(地場産物使用) →小・中・高等学校家庭科教材として活用 →各学校の献立表に地場産統一レシピ掲載
				野菜摂取量を知っている	自分にあつた野菜摂取量を知っている 小3 24% 小5 23% 中2 16% 高2 27%	自分にあつた野菜摂取量を知っている 小3 74% 小5 73% 中2 44% 高2 50%	自分にあつた野菜摂取量を知っている 小学校 80% 中学校 50% 高校 50%	⑤指導者研修会の開催 ⑥地産地消月間の実施 →統一メニューによる地産地消給食の開催
				望ましいおやつ(穀類・乳製品・果物)の摂取をしている	望ましいおやつ(穀類・乳製品・果物)の摂取をしている 小3 19% 小5 17% 中2 18% 高2 11%	望ましいおやつ(穀類・乳製品・果物)の摂取をしている 小3 16% 小5 19% 中2 10% 高2 13%	望ましいおやつ(穀類・乳製品・果物)の摂取をしている 25%	→市民給食試食会の開催 ⑦給食食育の日実施 「毎月19日の食育の日」に市内の小・中学校において「統一テーマで食育指導を開催する。

家族一緒にの食卓で 心と体を育む	子どもにあった食生活を送り、健康に成長する	子どもが栄養や健康について考える	栄養や健康について考える	栄養や健康について考える	60%	
			小3 36%	小3 46%		
			小5 38%	小5 58%		
			中2 49%	中2 50%		
			高2 59%	高2 55%		

3 成人期

五泉市が目指すもの		調査データ (H18.19)	調査データ (H23年)	目標値 (H28年)	主な取組・事業名	
健康でいきいきとした人生を送る 形成する 健康的な食習慣を	メタボリックシンドロームを予防する	☆適正体重の人の割合を増やす (指標) ・BMI25以上の有所見率(対象者:国民健康保険加入者)	BMI25以上の有所見率 市 22.9% 男 25.6% 女 24.1% 男性…20～60歳代 女性…40～60歳代	BMI25以上の有所見率 市 21.7% 男 23.9% 女 20.2% 40～74歳 (H22年度特定健康診査等結果集計)	15%	共通取り組み ① 健康づくり支援店の募集・利用促進 ② 食育応援団の募集・利用促進 ③ 健康教育の実施 ④ 特定保健指導及び健康診査結果説明会 ⑤ 地区健康教室 ⑥ 職場や食育応援団、食生活改善推進員、商工会・商工会議所、各種健康教室などからの情報発信
		☆標準体重に近づけるように体重管理をしている人を増やす (30～50代)	なし (新規)	男 44% 女 61% (H23食育アンケート)		
	☆朝食をしっかりとる (指標) 朝食を欠食する人の割合を減らす	なし (新規)	朝食を週2回以上食べないことがある人 市 20.6% 男 27.1% 女 14.8% 30～50歳代 (健康増進計画)	男 15%以下 女 10%以下		
	☆野菜を毎食とる (指標) 1日に中皿3杯以上の野菜をとる人の割合を増やす	野菜の摂取量が350g以下の人 市 8.3% 男 12.0% 女 6.5%	野菜の摂取量が350g以下の人野菜をしっかりとる人の割合(21年度) 市 52.6% 男 53.3% 女 52.1% 30～50歳代 (健康増進計画)	70%以上		

健康でいきいきとした人生を送る	健康的な食習慣を形成する	☆塩分摂取量を減らす (指標) 塩分摂取量に気遣っている人の割合	なし (新規)	男 17% 女 24% (H23 食育アンケート)	男 35% 女 50%	
	働き盛りの人が健康に関心をもち自分の生活を見直すことができる	☆働き盛りの人が、健康に配慮した店を選んでいる	食育応援団、健康づくり支援店を知っている人の割合 市 50% 男 50% 女 50%	健康づくり支援店 「言葉も意味も知っていて、利用したことがある」人の割合 3% 食育応援団 「言葉も意味も知っていて、健康情報を得たことのある」人の割合 5% (H23 食育アンケート)	健康づくり支援店 30% 食育応援団 30%	
		☆働き盛りの人が食や健康に関する情報を得ている	なし (新規)	健康情報を意識的に見る人の割合 男 44% 女 59% (H23 食育アンケート)	男 60% 女 70%	
	地域の伝統的な食文化を次世代に伝える	家族みんなで協力して家事に関わることにより、食への関心を高める	子どもが食に関するお手伝いをする 小3 49% 小5 52% 中2 50% 高2 54%	小3 50% 小5 53% 中2 55% 高2 60%	70%	⑦ 地場農産物を使った食育料理講習会 (郷土料理講習会) *地域PTA、お茶の間サロンなど学校以外の講習の場を増やす ⑧ 地産地消月間の実施
地域において、食を通じた交流と食文化の伝承を図る		地域と学校の食を通じた交流会の開催 6校	H18~22 述べ参加校数 34校 述べ参加人数 2,242人	増加		

4 地産地消の推進

五泉市が目指すもの		調査データ (H18. 19)	調査データ (H23 年)	目標値 (H28 年)	主な取組・事業名																
市民に地場産の安全で安心な農産物を供給する	給食での地場農産物の利用率を上げる	<p>・学校給食における地場産野菜利用率 (H17) *重量ベース</p> <table border="1"> <tr> <td>五泉</td> <td>村松</td> </tr> <tr> <td>20%</td> <td>5%</td> </tr> </table> <p>・幼稚園・保育園における給食での地場産野菜利用率 (H17) *重量ベース</p> <table border="1"> <tr> <td>幼稚園</td> <td>17.8%</td> </tr> <tr> <td>保育園</td> <td>4.1%</td> </tr> </table>	五泉	村松	20%	5%	幼稚園	17.8%	保育園	4.1%	<p>・学校給食における地場産野菜利用率 (H22 末) *重量ベース</p> <table border="1"> <tr> <td>五泉</td> <td>村松</td> </tr> <tr> <td>22.2%</td> <td>13.4%</td> </tr> </table> <p>・幼稚園・保育園における給食での地場産野菜利用率 (H22 末) *重量ベース</p> <table border="1"> <tr> <td>幼稚園</td> <td>10.4%</td> </tr> <tr> <td>保育園</td> <td>5.1%</td> </tr> </table>	五泉	村松	22.2%	13.4%	幼稚園	10.4%	保育園	5.1%	給食利用率 25%	①学校給食等地産地消推進事業
	五泉	村松																			
	20%	5%																			
幼稚園	17.8%																				
保育園	4.1%																				
五泉	村松																				
22.2%	13.4%																				
幼稚園	10.4%																				
保育園	5.1%																				
家庭での地場農産物の利用を促進する	若年から中堅層消費者が、地場農産物に関心をもち、積極的に利用する	47.9% (7%)	41.4% (5%)	市民アンケート ・消費者(20~40代)の地場産農産物を積極的に利用する率 60%	②地産地消・食育食農推進事業 ・食育だよりの発行 ・地場産食材の料理レシピ等の配布 ・農業体験イベント等																
生産者の地産地消に関する意識を高める	生産者の安全、安心に対する意識を高める	<p>・特別栽培農産物等面積 → 22ha</p> <p>・エコファーマー認定者数 → 29人</p>	71.9ha 247人	特別栽培農産物等面積 100ha	③生産者との交流、イベント等の実施 ・さといも祭・農業まつり ・紅葉マラソン・料理講習会 など																
	消費者との信頼関係の構築や交流の推進を図る			一般消費者を対象とした食育イベントの企画数																	

第5章 目標達成のための基本取組

1 施策の方向

五泉市の食に関する現状と段階別目標設定、地産地消の推進の目標設定について記述してきました。これらの目標を達成するために、家庭や地域、関係機関等が連携を図り、同じ目標に向かって食育の推進をしていくことが必要です。段階別に目標としたものを整理すると、目指すべき施策の方向は、次のようになります。

施策目標				施策の方向
乳幼児期	学齢・思春期	成人期	地産地消	
子どもの生活リズムを確立させ、いきいきと過ごす	生活リズムを整え、快適な生活を送る	健康的な食習慣を形成する		➡ ①食生活の充実と生活リズムの確立
家族みんなでマナーを守って食事をする	子どもが家族と一緒に食事をする			➡ ②食の楽しさや大切さを知り、感謝の気持ちを持つための食環境の整備
			給食での地場農産物の利用率を上げる 家庭での地場農産物の利用率を上げる 生産者の地産地消に関する意識を高める	➡ ③安全安心な地場農産物のある食卓を目指す
正しく食べて親子ともに健康を保つ	子どもにあった食生活を送り、健やかに成長する	メタボリックシンドロームを予防する 働き盛りの人が健康に関心を持ち、自分の生活を見直すことができる		➡ ④食を通じた健康維持増進を図る
		地域の伝統的な食文化を次世代に伝える		➡ ⑤食文化の伝承を図る

① 食生活の充実と生活リズムの確立

- 子どもの健やかな成長には、正しい生活リズムの確立が大切であることを周知します。そのために、「毎日きちんとした朝食をとる」と「早寝の習慣の確立・睡眠時間の確保」などの、生活リズムの指導の徹底と充実を図ります。
- 心身ともに健康になるため、幼児期から高齢期まで「主食・主菜・副菜」の揃った食卓が大切であることを周知徹底し、バランスのとれた食事を習慣化します。そのために、学校給食等を生きた教材として活用することや地域との連携により、市民に多くの情報提供ができるよう体制を整えます。

② 食の楽しさや大切さを知り、感謝の気持ちをもつための食環境の整備

- ・ 幼児期から発達段階に応じて、食の楽しさや大切さを経験することが、食を大切にする気持ちと感謝の気持ちを育てます。そのために、家族との共食や野菜栽培の経験、地域の生産者との食を通じた交流の推進を図ります。
- ・ 幼児期から正しい食事のマナーを身につけることの大切さを保護者へ啓発し、家庭との連携で食に関するマナーの習得を徹底します。
- ・ 家族で協力して家事に関わることで、食への関心を高めます。調理技術の習得だけでなく、買い物や食事の後片付けなど、男性や子どもでも役割をもって家事に協力できるよう実践します。

③ 安全安心な地場農産物のある食卓を目指す

- ・ 農業関係者だけでなく、行政や学校等との連携をもち、学校給食等への安定した供給体制を確立します。
- ・ 生産者の顔が見える、安全安心な食の流通の整備と拡大を関係機関と連携して進めます。
- ・ 地産地消を推進することの利点を、幅広い年代層に啓発し、地場農産物の消費拡大に努めます。
- ・ 地場農産物を多くの市民に活用してもらえるよう、旬の野菜に関する情報や調理法などが得られるよう、さまざまな媒体を通じて多方面から情報提供を行います。

④ 食を通じた健康維持・増進を図る

- ・ 偏食や過食を防ぎ、自分に合った食事量を知り、それをしっかりと日常生活で実践します。特に、野菜不足や間食からの過剰なエネルギー摂取を防ぎます。
- ・ 外食時や食材購入時などの、エネルギー表示や栄養成分等の表示の充実と拡大をすることにより、食への関心と自分の健康管理への意識を高めます。
- ・ 適正体重を認識し、肥満とやせすぎの発生を防ぎます。

⑤ 食文化の伝承を図る

- ・ 保育園・学校等で、地域に伝わる郷土料理の伝承を図ります。そのために、保育園・学校等と地域とが連携した事業を拡大し、指導者の充実に努めます。

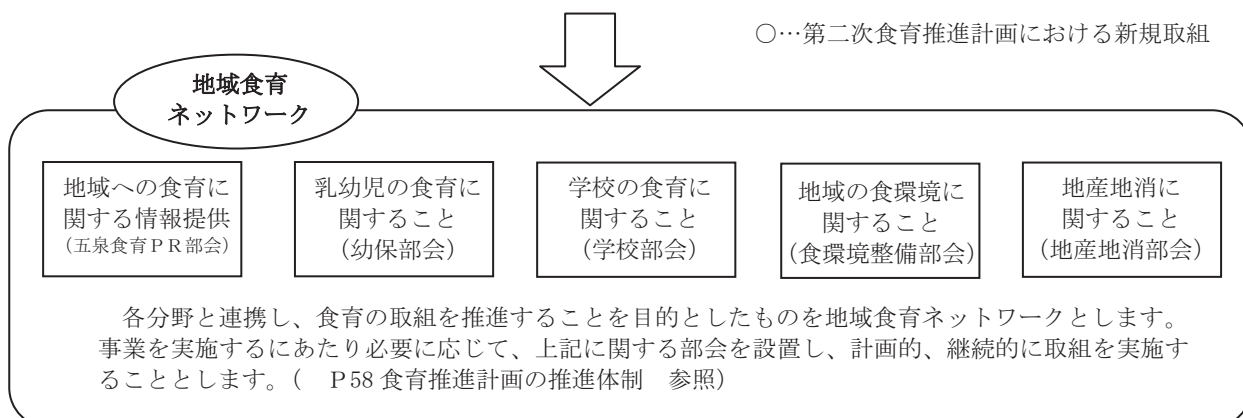
2 施策の展開

これまでも多くの関係者により「食」については、様々な視点から取組がなされてきました。「食」は幅広い分野に及びます。食育を効果的に推進するには、一つの機関が単独で取り組むのではなく、住民と各関係機関・団体が連携して目標と意識を共有することが大切です。

ここでは、各世代と地産地消における、各場面（家庭、学校、保育園等、地域、食と農の交流）での重点目標達成のための施策の展開を以下のようにまとめました。

	乳幼児期	学齢・思春期	成人期	地産地消
家庭における食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 朝食の大切さと生活リズム向上の啓発 ⇒ 食育週間の実践 ⇒ 早寝早起き朝ごはん運動 ・乳幼児健診・離乳食講習会の充実 ・母子保健推進員による訪問指導 	<ul style="list-style-type: none"> 朝食の大切さと生活リズム向上の啓発 ⇒ 食育週間の実践 ○家庭版実践型食育推進計画の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区健康教室等における、健康や食に関する情報提供の充実 ・高齢者への食を通じた交流の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消・食農推進事業 ⇒幅広い年代の市民への地場農産物のPR ・地場農産物を活用した学校給食レシピカードの活用
学校、保育園等における食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・食育教室の拡大 ・保護者を対象とした食育教室の開催 ・食育教室のための指導者研修の実施 ・先進地への視察研修 ・給食だよりによる食育に関わる情報提供の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員を対象とした食育指導者研修会の開催 ・指導教材の整備と拡充 ○「学校給食食育の日」の設定 ○地産月間の設定 ・食育だよりの発行 ・保健だよりや給食だよりによる健康や食に関する情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校における郷土料理講習会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食等地産地象推進事業 ・郷土料理講習会の開催
地域における食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・幟旗による情報の提供の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民給食試食会の開催 ・地場農産物を活用した学校給食レシピカードの作成及び配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育応援団の募集及び、食育応援団からの情報提供の充実 ・新潟県健康づくり支援店の普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者との交流、イベントの企画、開催
食と農の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者による野菜の栽培等の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者を招いての給食交流会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業イベント等における食育地産地消コーナーの設置、充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校等において生産者を招いての給食交流会や農業体験等の開催

○…第二次食育推進計画における新規取組



〔1〕 家庭における食育の推進

市民一人一人が家庭や地域において、自分自身や子どもの食生活に関心と理解を深め、健全な食習慣の確立と豊かな人間性を育むために、適切な取組を行うことが必要です。食生活の在り方は、個人の価値観に負うところが大きいものですが、その中で、家庭においても自発的に

食育に取り組んでいきます。

① 家族揃った食卓で、家族の交流を図り、食に関するマナーを習得する

核家族など家族形態の多様化や共働きの家庭の増加の中で、家族がそれぞれの生活スタイルをもち、家族で食卓を囲む機会が少なくなりつつあります。本来、家族が食卓を囲んで食事をする中で、食事のあいさつやはしの持ち方などの食事のマナーを自然に習得し、伝統的な食文化の伝承も図ってきました。家族が揃った食卓から子どもたちは、安心感や信頼感を得るものです。しかし、現代社会では家庭内で食の知識を伝えることも家族の絆を育む機会も少なくなっています。

各家庭が、家族で食卓を囲むことの大切さを再認識することが大切です。それが、家庭での食育への関心を高めていくことにつながります。そのために、家族で食卓を囲むことの大切さを再認識できるよう、行政や地域、学校、保育園等から保護者への働きかけをし、情報提供していきます。

② 朝食の欠食をなくし、生活リズムの向上を図る

子どもが健やかに成長していくためには、バランスのとれた食事、適切な運動、十分な休養・睡眠が必要です。

五泉市においても、学習意欲や体力、気力の低下の要因の一つとして指摘されている朝食欠食を始めとする生活リズムが乱れている子どもが見受けられます。家庭における食事や睡眠等の乱れを個々の家庭や子どもの問題として見過ごすことなく、社会全体の問題として、地域全体が一丸となり生活リズムを整え、健康な生活を送るための取組をしていきます。

そのために、行政や地域、学校、保育園等は、生活リズムの乱れが心身の成長や学習意欲や体力、気力の低下との関わりがあることを周知し、市民が健康な生活を送るための支援をしていきます。

③ 望ましい食習慣や知識の習得

自分に合った食事量を知り、過食や食べ残しをしないことは、健康維持や環境のためにも大切なことです。現代社会は飽食の時代となり、食べたいものがいつでもどこでも手に入る環境です。このような環境だからこそ、望ましい食習慣として何をどれくらい食べたらいのかを知り、それを実践していかなければなりません。また、家族みんなが食事のあいさつをすることや正しいはしの使い方ができるなどの食事のマナーを身につけることも大切です。

そのために、市民の食生活に関わる関係機関は、望ましい食習慣についての情報提供を行います。学校、保育園等の取組の紹介や地区健康教室等の開催、「食育だより」の発行などです。このように、食育に関わる情報を多くの市民が知ることができるよう、必要な情報を発信し、家庭での知識の習得と実践につなげていきます。

④ 乳幼児に関する栄養指導の充実

妊婦の栄養摂取や健康状態は、そのまま胎児への発育・発達に影響を与えるため、妊婦への栄養指導は重要です。若年女性の栄養の偏り、やせすぎの者の割合が増加するなど、健康上の問題が指摘されており、妊娠期および授乳期においても母子の健康の確保のために適切な食習

慣の確立が必要です。乳幼児期の栄養指導の場として、健康診査や離乳食講習会、母子保健推進員の訪問、相談会などがあります。その中で、相談しやすい環境づくりや、分かりやすい指導媒体や情報提供の充実を図ります。

⑤ 高齢者へのふれあいのある食の提供の充実

生活環境の変化や体力の低下が著しい時期で、さまざまな病気にもかかりやすくなります。健康状態に合わせてバランスのよい食生活を実践することが必要です。

高齢化が進むにつれて一人暮らしの高齢者が増加し、一人で食事をする、外出の回数が減り、閉じこもりがちになるなどの問題が生じてきます。仲間や家族と一緒に食事することは、それらの予防のために大切です。

高齢者が健康で、おいしく食事がとれることを支援する場として、各地区でお茶の間サロンでの調理実習や食生活改善推進委員による訪問指導を行っています。人と人との関わりの中で、心と心の触れ合いのある取組を実施していきます。また、家事に関する手法を学ぶ機会として家事の達人事業があります。調理実習を通じて食事のバランスや減塩のための工夫など教室参加者に分かりやすい情報提供を実施します。自宅に弁当を届ける食の自立支援事業において、栄養バランスのとれた食事の提供も関係機関との協力のもと充実していきます。

⑥ 郷土料理を食べる機会の増加

五泉市の自然の恵みを受けた地場農産物を食材として使い、それを食べることは、安全で安心な食生活を送ること、ひいてはそれが地産地消の推進につながります。幅広い年代の市民に地場農産物の良さを知ってもらい、家庭で活用してもらえるようにしていきます。そのために生産者は、食料販売店や地場農産物の直売所において、品揃えの充実やレシピカードの配布による調理法の紹介等に取り組んでいくことが郷土料理を食べる機会につながります。

また、地元の特産物を使った伝承料理を広めていく取組として、小中高等学校と連携し、食育料理講習会等を開催します。そのための、指導者の充実と開催校の拡大を図ります。その講習会で用いた献立を家庭でも実践していくことにより食文化の伝承につなげていきます。

○主な事業

乳幼児期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早寝早起き朝ごはん運動の実践 ・ 食育週間～生活チェック～の実施 ・ 子ども版食育だよりの発行 ・ 乳幼児健診、離乳食相談会の開催
学齢思春期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭版実践型食育推進計画 「家族ほのぼのプラン（仮称）」 ・ 子ども版食育だよりの発行
成人期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食の自立支援事業 ・ お茶の間サロン ・ 地区健康教室
地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地場農産物を使ったレシピカードの活用

○ 市民等の役割

- ・ 家族が食卓を囲んで食事をするときは、テレビを消して、家族の会話を楽しみましょう。
- ・ 「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつを、家族みんなでしましょう。
- ・ 正しいはしの持ち方を、家族みんなで実践しましょう。
- ・ 生活リズムの大切さを理解し、大人的生活時間に子どもをあわせないようにしましょう。
- ・ 親子で料理を作ったり、一緒に食事をするすることで、食品を正しく選ぶ能力やマナーを身につけ、家族のふれあいをもちましょう。
- ・ 食べ過ぎや食べ残しをせず、バランスのよい食生活を心がけましょう。
- ・ 地域の農産物に関心を持ち、色々な野菜料理を作って味わいましょう。

〔2〕 学校、保育園等における食育の推進

子どもの食生活をめぐる問題が大きくなる中で、子どもの健全育成に重要な役割を果たしている学校、保育園等は、その改善を進めていく場として大きな役割を担っています。学校や保育園等の関係者は、あらゆる機会と場所を利用して積極的に食育の推進に努めることが求められます。また、子どもが食の大切さや楽しみを実感することにより、家庭における食育の推進へもつながります。家庭と地域が連携し、学校、保育園等において、魅力ある食育活動を推進し、子どもの健全な食生活の実現と豊かな人間形成を図ります。

① 指導内容の充実

〔幼稚園・保育園における指導の充実〕

幼稚園・保育園は、子どもの健やかな心身の発育のため、楽しく食べることと望ましい食習慣が定着するよう、発達段階に応じたねらいや留意事項を整理した「食育年間計画」に基づき、平成17年度に五泉市食育推進プロジェクトチームが作成した「食育マニュアル」を活用し、計画的、継続的な食指導の充実を図ります。保育園での、生活リズムや食生活の指導を始めとする「食育教室」の内容充実と開催の拡大を図り、保育者が主体となり食育教室の計画、実践を行う「親子食育教室」の継続と拡大を図り、保育者と子どもの食の大切さを啓発します。また、家庭との連携で「食育週間」の実践で、生活チェック等を行うことにより、正しい生活リズムの確立を目指します。併せて、園における指導者の資質向上を目的とした指導者研修や食育指導の先進地等への視察研修を開催します。

〔学校における指導の充実〕

学校における食育は、子どもが食に関する正しい知識を身につけ、自らの食生活を考え、望ましい食習慣を実践することができることを目指しています。そのために、「生きた教材」である学校給食を活用し、各教科や総合的な学習の時間等における食に関する指導教材の充実を図りながら指導を行います。併せて、教職員を対象とした「食育指導者研修会」の開催を継続します。

② 学校給食の充実

地場農産物を学校給食に活用することは、子どもたちにとって生産者の存在や生産過程を理解することになり、感謝の気持ちをもつことにつながります。また、新鮮で安全、安心な地場農産物を確保することは、顔が見える地元の生産者だからこそできることです。そのために、学校、JAや農産物直売所を始めとする関係機関との連携により計画的、安定的に地場農産物の納入ができるよう体制を整備します。

学校栄養職員は、給食の献立を充実するための取組として、毎月19日を「学校給食食育の日」とし、計画的かつ継続的に学校での食に関する情報提供を実施いたします。また、「地産地消月間」を設け、地場農産物を活用した給食の献立を基に指導を充実します。さらに、学校給食週間*の開催を通じ、健康づくりや食への感謝の気持ちを養うこと等を目的とした取組も継続していきます。

*学校給食週間…文部科学省、(社)全国学校栄養士協議会、新潟県栄養士協議会の依頼により、学校給食の意義、役割等について児童生徒や教職員、保護者、地域住民等の理解と関心を高め、学校給食のより一層の充実発展を図ることを目的に毎年各学校で独自の内容で開催しています。

③ 学校と地域の連携

食に関する指導は、幅広い内容であり学校の教育活動全体を通じて行うことが大切です。そのためには、学校栄養職員だけでなく、すべての教職員が食に関する指導の重要性を理解し、連携していかなければなりません。また、学校と地域とが連携することにより、その内容を充実させていくことも必要です。例えば、野菜の生産者や関係者を招いての授業や給食交流会の開催、食生活改善推進委員と連携した郷土料理などを学ぶ機会として、食育料理講習会や健康増進に関する授業が行われています。これらの取組を支援していくとともに内容の充実や拡大を図ります。

④ 食文化継承の推進

五泉市は豊かな自然に恵まれ、肥沃な土壌から育つ四季折々の様々な農作物があります。地域の特色を生かした伝統的な行事や作法と結びついた食文化が形成されており、この食文化を次世代に伝えていかなければなりません。しかし、外国からの輸入食材や料理等が家庭にも普及し、栄養バランスに優れた「日本型食生活」*や、地域において継承されてきた食文化や豊かな味覚が失われつつあります。地域の郷土料理や伝統的な食文化の継承を図るために、学校、保育園等にて講習会を開催します。

学校給食においても、郷土料理を取り入れ、食文化の伝承をしていきます。献立を作成する栄養士は、郷土料理を積極的に献立に盛り込みます。また給食だよりには、子どもたちと保護者に、どの料理が郷土料理であるのかも分かりやすく表記し、調理の仕方等を情報提供していきます。郷土料理には、地場農産物をたくさん使用しているので地産地消の推進にもつながります。

*日本型食生活…米や魚介類、大豆製品、野菜などの昔から日本で食べられてきた食材に、肉類や乳製品などの欧米型の食材がバランスよく加わった食事内容のことです。これは栄養バランスがよく、健康的な食事であると世界的にも高く評価されています。

⑤ 情報提供の充実

保護者の食に対する意識の啓発のため、食育だよりや給食だより、園だより、給食試食会な

どを通じて食育に関する情報を提供していきます。家庭でも実践できる食育への取組や給食献立の紹介を継続していくことにより、家庭への食育の定着を図ります。

○主な事業

乳幼児期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食育指導者研修会の開催 ・ 視察研修の開催 ・ 食育教室、親子食育教室の開催 ・ 食育週間～生活チェック～の実施
学齢思春期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食育に関する指導教材の充実 ・ 食育料理講習会の開催 ・ 学校給食食育の日の実践 ・ 地産地消月間の開催 ・ 市民給食試食会の開催
成人期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食育料理講習会の開催
地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食における地場農産物の活用の充実

○ 市民等の期待

- ・ 保育園、幼稚園、学校等において食教育の充実が期待されます。
- ・ 地域の食材を活用した郷土料理などを体験する機会が増える事が期待されます。
- ・ 安心安全な地場農産物を食べる機会が増えることが期待されます。

〔3〕 地域における食育の推進

健康でいきいきと暮らしていくためには、子どもの時期はもとより、人生の各段階に応じた一貫性・継続性のある食育を推進していくことが必要です。特に、日本人の最大の死亡原因となっている生活習慣病を予防するためには、食生活の改善が大切です。食生活の改善のために、地域で活動する団体等は、それぞれがもつ専門性や特徴を生かしながら、地域における食に関する課題などを把握し、食育推進に関する情報の提供、食文化の伝承等を行います。また、他の団体や行政等の取組を把握し、効率的な連携を図ります。

① 医療保健分野における食育の推進

市内の医療機関である医師会、歯科医師会は専門知識を生かし、食育の重要性を行政との連携により市民に情報提供します。

医師会は、基本健康診査や乳幼児健診、予防接種等を実施し、必要に応じて健康と食に関する情報や指導を継続的に行います。

歯科医師会は、乳幼児の歯科健診、フッ素塗布事業等を実施し、子どものむし歯予防のための指導を行います。

また、学校、保育園等の連携を図り、健康と食に関する情報提供や指導を行います。

② 食生活改善推進委員・母子保健推進員における食育の推進

食生活改善推進委員と母子保健推進員は、市内各地区での活動において、市民に向けた食育に関する情報提供や知識の普及に努めます。

食生活改善推進委員は、各地区での生活習慣病の予防講習会、子どもの食生活講習会、高齢

者の食生活講習会を開催し、その内容の充実を図ります。また、食生活改善推進委員自身の資質向上の研修会を開催します。さらに、食生活改善推進委員の活躍を支援するため、食生活改善推進委員養成のための栄養教室を新たに開催し、人材の確保と養成に努めます。栄養教室では、食生活の改善や健康づくりの知識、技術の習得、地域の食文化などを学びます。その活躍の場として、小中学校においては食育料理講習会を開催し郷土料理の伝承、高等学校では郷土料理の伝承並びに正しい食習慣の普及（ヘルスサポーター21事業）等の活動を拡大します。

核家族の割合が増加し世帯人員は減少する傾向にある中、世代間による育児知識の継承が減少し、親自身の子育て経験の不足、地域社会の結びつきの希薄化とも相まって、家族の養育機能の低下、子育て中の親の不安感や孤立感の増大を招いています。その中で母子保健推進員は、乳幼児健診や育児相談会への協力、家庭訪問等を通じて乳幼児を持つ家庭にとって、良き相談役となっています。子どもの食に関しても、経験に基づいた助言ができることから、発達段階に応じた食習慣の形成に役立つ情報提供を行います。これらの活動を充実していくためには、人材確保や育成も必要となります。

どちらの団体も、地域において主体的な活動ができるよう事務局（行政）は、支援をしていきます。

③ 商工会議所・商工会・食品関連事業者等における食育の推進

地域における食環境については、食環境の多様化や外食する機会の増加に伴い、家庭における食事だけでなく、外食や加工品も含めた食生活の管理が求められます。そのために、食に関わる事業所は、積極的に市民に食に関する適切な栄養情報を提供する必要があります。また、市民と多く接点をもつ施設や事業所等では、食育応援団として「食育だより」等の情報提供をしていきます。

〔商工会議所及び商工会〕

事業所で働く市民の健康管理という視点から、今後取組が大いに期待される分野です。商工会議所及び商工会は、加盟する事業所に対し食育推進のための働きかけを積極的に行います。加盟している企業の従業員が健康診断を受けやすい環境を整えるとともに、各自が健康管理できるよう支援していきます。

より多くの市民へ食育や健康づくりに関する情報提供の場の充実とし「五泉市食育応援団」を市内事業所から募り、食育だよりや関連パンフレットの配布などを積極的に行います。

飲食店や中食^{なかしょく}*2等を扱う事業所においては、市民がどこでも自分に適した食事を選択できる環境整備として、新潟県健康づくり支援店の普及を図ります。栄養成分表示、低カロリーメニュー、野菜をたくさん使ったメニュー、栄養バランスのとれたメニューなどを提供する食品関連事業所の拡大を図ります。また、消費者である市民との接点を多く有していることから、旬の食材の紹介、メニューの提供など、生産者や関係機関と連携した取組を進めていきます。

以上のような取組は、働き盛りの世代にとっては健康教育の場や食育の情報提供として有効です。働き盛りの人のメタボリックシンドロームの予防と朝食欠食、野菜の摂取不足、塩分過多の食事など健康問題が明らかになっています。核家族や共働き家庭が増える一方で、食事が簡便化傾向にある中、外食や中食等の分野における健康づくりを視野に入れた食への取組は全市をあげて推進していかなければなりません。

○主な事業

乳幼児期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母子保健推進委員の活動の充実 ・ のぼり旗活用による食育情報提供の充実
学齢思春期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食生活改善推進委員による食育料理講習会の開催 ・ 市民給食試食会の開催
成人期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食生活改善推進委員による食育料理講習会の開催 ・ 新潟県健康づくり支援店の普及 ・ 五泉市食育応援団の普及
地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産者との交流、イベントの開催

○ 市民等の期待

- ・ 生活のあらゆる場面から、食育情報を得る事が出来ます。

〔4〕食と農の交流・地産地消の推進

食に対する感謝の念を深めていくには、食を生み出す場として農業に関する理解が重要です。本計画でも、食育への取組には地産地消の推進も併せて行うことにより、食への関心を高めていきます。消費者にとって生産者が「顔が見える」存在であるということは、安心につながり、生産者が消費者の存在をしっかりと意識することで安全な農産物が作られます。それが、お互いの信頼関係の構築につながり、市民に安全で安心な地場農産物が供給されます。ひいてはその取組が、地産地消の推進につながります。

① 学校給食への地場農産物の供給体制の整備

現在、JA、農産物直売所の協力により幼稚園、小中学校には地場農産物が学校給食に使用されています。平成23年度からは、1保育園において地場農産物の供給が開始されました。今後は、センター方式から自校調理方式への転換による供給体制の再検討と市内保育園への地場農産物の供給体制の拡大を整備します。

② 生産者との交流の推進

市内ほとんどの学校、保育園等で野菜や稲の栽培を行っています。野菜の生長を見守り、収穫の体験をすることにより、自分の育てた野菜に興味をもち、身近に感じる事ができます。また、共同作業により一つの事を成し遂げる達成感やそれを級友たちと一緒に食べる満足感が、食への喜びにつながります。収穫した野菜を自宅に持ち帰ることにより、その取組が家庭でも話題に上がり家庭への波及効果が期待できます。

その取組を活性化するために、生産者との交流による野菜の栽培や収穫体験の機会を増やし、学校、保育園等で野菜の栽培を通じた交流の推進を支援します。子どもたちが生産者と直接関わることで、野菜の収穫時に味わう栽培の喜びや苦労話を聞く機会が得られ、野菜への興味や関心が高まることも期待できます。学校給食においては、給食に納入している生産者を招いての給食交流会等の開催も拡大していきます。生産者にとっては、自分の作った野菜を子どもたちが喜んで食べる姿を見ることで、安全な野菜作りへの意識の高まりにつながります。

③ 地場農産物の普及啓発

市内には、地場農産物を購入できる直売所やスーパー等が増えました。地元で取れた農産物を地元で消費する地産地消の取組は、流通に要する経費の削減から安価に食材を購入することができる場合があることと、包装の簡素化等による環境保護にもつながります。地産地消への関心を高める必要がある若年層に対し、食への関心を高める工夫をしながら、地場農産物の普及啓発を行います。市内直売所を幅広い年代層に利用してもらうこと目的とした、「学校給食レシピカード」の設置の継続と直売所からの情報提供の充実を図ります。

○主な事業

乳幼児期	・ 給食における地場農産物の活用の充実
学齢思春期	・ 給食における地場農産物の活用の充実 ・ 直売所における学校給食レシピカードの配布 ・ 地産地消月間の開催
地産地消	・ 給食における地場農産物の活用の充実 ・ 農産物生産者との交流やイベントの開催

○ 市民等の期待

- ・ 給食において地場農産物を食べる機会が増える事が期待されます。
- ・ 農産物直売所等からの食育情報の充実が期待されます。

〔5〕総合的な食育の展開

食育への取組は、今までも家庭、学校、保育園等、地域、農業の分野、食品関連事業者、行政など各分野において取り組まれてきました。これらの関係者が共通認識のもと、連携をもち、効果的に食育の推進をします。

① 「食育講演会」・「市民給食試食会」の開催

市において、食育の実践や情報提供の機会の充実を目的に「食育講演会」を開催いたします。また、学校給食と地場農産物について、広く市民への情報提供の機会として、「地場農産物を使った市民給食試食会（仮称）」の開催いたします。

② 食育情報の発信

食育への取組や情報をより多くの市民に伝えることができるよう、広報ごせんや市民新聞等を活用した情報提供を行います。また、五泉市のホームページ等の活用も検討していきます。

また、食育に関わる関係者と連携し、「食育だより」を作成し、地域の特色ある情報を提供していきます。「食育だより」は、市内の食育応援団に設置し、市民に向けて情報提供していきます。

〔6〕 行政における食育の推進

市は、市民に一番身近な行政機関であることから、地域住民の食育の推進役として他の行政機関（新潟地域振興局健康福祉部等）とともに、学校、地域団体、企業、健康関連団体等との連携を図りながら、地域の実態を把握し食育の推進を図ります。

このため、各関係課は次のとおり明確にしたそれぞれの役割を着実に実行するとともに、他の関係課や地域団体等の取組を把握し積極的な連携を図るなど、効果的な食育推進に努めます。

学校教育課・給食センター（食育推進計画・幼稚園と小中学校の給食に関すること）

- ・栄養バランスのとれた給食を提供することにより、児童生徒の健康保持と体位の向上を図ります。
- ・小中学校と連携し、児童生徒とその保護者に向けた食に関する指導や情報提供を行います。
- ・学校給食を通じた食文化の継承を行います。
- ・幼稚園、小中学校の給食において、地場農産物を積極的に利用し、食育の推進を図ります。
- ・広報ごせん等を通じ、食育に関する情報提供を行います。
- ・食育推進計画策定とその推進のための事務局として、関係機関との連携を図ります。

健康福祉課（生活習慣病予防・保健活動に関すること）

- ・特定健康診査やがん検診、結果説明会等を通じ、栄養指導や保健指導を実施します。
- ・生活習慣病が発症している人や発症しそうな人を対象に、栄養指導や予防教室を開催します。
- ・食生活改善推進委員の地域の活動を支援します。
- ・食生活改善推進委員との連携をとり、食育推進に関する知識の普及に努めます。
- ・地域での保健活動（健康教室等）において、高齢者とその家族に対して、食育や健康増進に関する知識の普及に努めます。
- ・五泉市食育応援団及び、新潟県健康づくり支援店の普及を図ります。

こども課（母子保健・保育園の幼児に関わること）

- ・母親学級等を通じ、妊婦に適切な栄養や食生活のあり方について指導や相談を行います。
- ・乳幼児健診を通じ、食事や栄養等の相談や指導を行います。
- ・歯科健診やフッ素塗布事業、フッ素洗口事業、むし歯予防教室等を通じ、子どもの虫歯予防に努めます。
- ・保育園での給食を通じ、食育の推進を図ります。
- ・給食において、地場農産物を積極的に利用し、食育の推進を図ります。
- ・食育教室の開催を拡大し、内容の充実を図ります。
- ・園児の保護者に向けた講演会等の開催により、食育推進のための情報提供を行います。

高齢福祉課（高齢者福祉に関わること）

- ・介護状態になることを予防する観点から、食べることの意義、食べる楽しみを再認識できるよう支援します。
- ・高齢者食の自立支援事業を通じ、高齢者に対する食への支援を行います。
- ・高齢者食改善事業などにおいて、高齢者本人や家族へ必要な栄養指導や食に関するアドバイスをを行います。

農林課（農業に関わること）

- ・地産地消の推進として、生産者と関係機関との連携で技術の向上を目指します。
- ・農業まつりや里芋まつりなどイベントの開催を通じ、市民に地産地消の啓発を行います。

3 第二次食育推進計画 重点目標と5か年取組計画

・重点目標を一年ずつ取組ます。

・太字は、新規事業になります。

		重点目標															
		① 早寝早起きをして朝ごはんを食べる			② 家族みんなで『いただきます』をする			③ 地場農産物を使った野菜料理をつくる			④ 新重点目標(今後設置する)						
		早寝早起き、朝ごはん			家族みんなで『いただきます』			地場農産物の活用			新重点目標【 】			総括・評価			
		H24年度			H25年度			H26年度			H27年度			H28年度			
		H24.4~6	7~9	10~12	H25.4~6	7~9	10~12	H26.4~6	7~9	10~12	H27.4~6	7~9	10~12	H28.4~6	7~9	10~12	H29.1~3
地産地消の推進	市民イベント	市民給食試食会			市民給食試食会			市民給食試食会			市民給食試食会			市民給食試食会			
	市民イベント	花まつり	さともまつり他		花まつり	さともまつり他		花まつり	さともまつり他		花まつり	さともまつり他		花まつり	さともまつり他		
乳幼児期	キャンペーン①	*早寝早起き朝ごはん運動			*家族みんなで『いただきます』運動			*地産地消運動			*重点目標運動			食生活アンケート			
	指導者研修会	指導者研修会 食育週間			指導者研修会 食育週間			指導者研修会 食育週間			指導者研修会 食育週間			指導者研修会 食育週間			
	教室の開催①	子ども食育教室継続			のぼり旗の作成 先進地へ視察研修			のぼり旗の作成 11月第3日曜 家族の日			先進地へ視察研修			メディアリスト更新			
	メディアリスト作成	メディアリスト作成			メディアリスト更新			メディアリスト更新			メディアリスト更新			メディアリスト更新			
学齢思春期	市民イベント	市民給食試食会			*家族で『いただきます』運動			市民給食試食会			市民給食試食会			市民給食試食会			
	教室開催	学校給食食育の日の実施 食育料理講習会取りまとめ、開催			指導者研修会			指導者研修会			指導者研修会			指導者研修会			
	指導者研修 媒体作成①	給食レシビカード作成(年4回)			いただきますカード作成配布 家族でほのぼのの食育計画			表彰 家族でほのぼのの食育計画			表彰 家族でほのぼのの食育計画			表彰 家族でほのぼのの食育計画 食生活アンケート			
成人期	市民イベント	市民給食試食会			市民給食試食会			市民給食試食会			市民給食試食会			市民給食試食会			
	教室開催	食育料理講習会開催 新規目標アンケート			食推レシビカード作成(年4回)			食育アンケート			食育アンケート			食育アンケート			
五泉食育PR部会	広報掲載①	食育月間 食育連載4回			食育月間 食育連載4回			食育月間 食育連載4回 市民公募レシビカード			食育月間 食育連載4回 レシビカード編集			食育月間 食育連載4回			
	媒体作成②	地域版食育だより(春夏) 地域版食育だより(秋冬)			地域版食育だより(春夏) 地域版食育だより(秋冬)			地域版食育だより(春夏) 地域版食育だより(秋冬)			地域版食育だより(春夏) 地域版食育だより(秋冬)			地域版食育だより(春夏) 地域版食育だより(秋冬)			
	媒体作成③	こども食育だより(夏) こども食育だより(冬)			こども食育だより(夏) こども食育だより(冬)			こども食育だより(夏) こども食育だより(冬)			こども食育だより(夏) こども食育だより(冬)			こども食育だより(夏) こども食育だより(冬)			
検討委員会	事業確認	・検討委員会① ・検討委員会② ・検討委員会③			・検討委員会① ・検討委員会② ・検討委員会③			・検討委員会① ・検討委員会② ・検討委員会③			・検討委員会① ・検討委員会② ・検討委員会③			・検討委員会① ・検討委員会② ・検討委員会③			
	事業確認	・推進委員会① ・推進委員会②			・推進委員会① ・推進委員会②			・推進委員会① ・推進委員会②			・推進委員会① ・推進委員会②			・推進委員会① ・推進委員会②			

平成23年度 五泉市食育推進委員会委員名簿

	氏 名	所 属 名	備 考
1	篠 川 智	五泉市東蒲原郡医師会 理事	医療関係団体の代表者
2	長谷川 敏樹	五泉市阿賀町歯科医師会 会員	医療関係団体の代表者
3	山 崎 洋子	五泉市食生活改善推進委員協議会 副会長	民間諸団体の代表者
4	南 澤 幸子	五泉市立保育園保護者会連絡協議会 会長	民間諸団体の代表者
5	白 井 保	五泉市小・中学校PTA連絡協議会	民間諸団体の代表者
6	瀬 倉 典子	新潟みらい農業協同組合 企画総務部 企画組織課	民間諸団体の代表者
7	小 柳 隆	五泉商工会議所 専務理事	民間諸団体の代表者
8	長 谷 川 豊	村松商工会 経営支援室長	民間諸団体の代表者
9	坪 川 トモ子	新潟地域振興局 健康福祉部 地域保健課長	関係行政機関の職員
10	田 中 恭子	五泉市立保育園長 (大蒲原保育園長)	関係行政機関の職員
11	小 熊 進二	五泉市校長会 (五泉南小学校長)	学校の職員
12	金 永 雅美	新潟県学校栄養士協議会 (新潟市立曾根小学校 栄養主査)	学校の職員

(敬称略)

*委員の任期 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

村山 伸子	新潟医療福祉大学 博士	アドバイザー
-------	-------------	--------

平成23年度五泉市食育推進検討委員会委員名簿

	所 属 名	委 員 名	備 考	
1	生産者	浅井 久美雄		
2		楯 年 夫		
3		渡辺 みのり		
4	新潟みらい農業協同組合	清 田 亮 太	営農センター	
5	新潟地域振興局 健康福祉部	広 沢 圭 子	栄養士	
6	五泉小学校(学校給食センター)	吉 井 香	栄養士	
7	五泉小学校(学校給食センター)	大 谷 香	栄養士	
8	五泉南小学校	吉 澤 愛	栄養士	
9	川内小学校	間 嶋 紀 子	教 諭	
10	大蒲原小学校	江 川 美 和 子	養護教諭	
11	村松小学校	渡 部 円	栄養士	
12	愛宕中学校	黒 鳥 一 恵	教 諭	
13	愛宕中学校	三 浦 良 子	栄養士	
14	健康福祉課	塚 野 縁	保健師	
15		川 崎 美 里	栄養士	
16	高齢福祉課	籾 本 春 美	保健師	
17		梁 取 弘 美	保健師	
18	こども課	鈴 木 信 子	保健師	
19		荒 木 千 佳	保健師	
20		渡 辺 麻 由 美	栄養士	
21		二 瓶 由 美	栄養士	
22	農林課	渡 辺 彰		
23		室 橋 節 子		
24	商工観光課	新 田 い ず み		
25	学校給食センター	中 川 司		
26	すみれ保育園	黒 井 千 代 美	保育士	
27	村松幼稚園	安 永 恵 美	教 諭	

(敬称略)

*委員の任期 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで